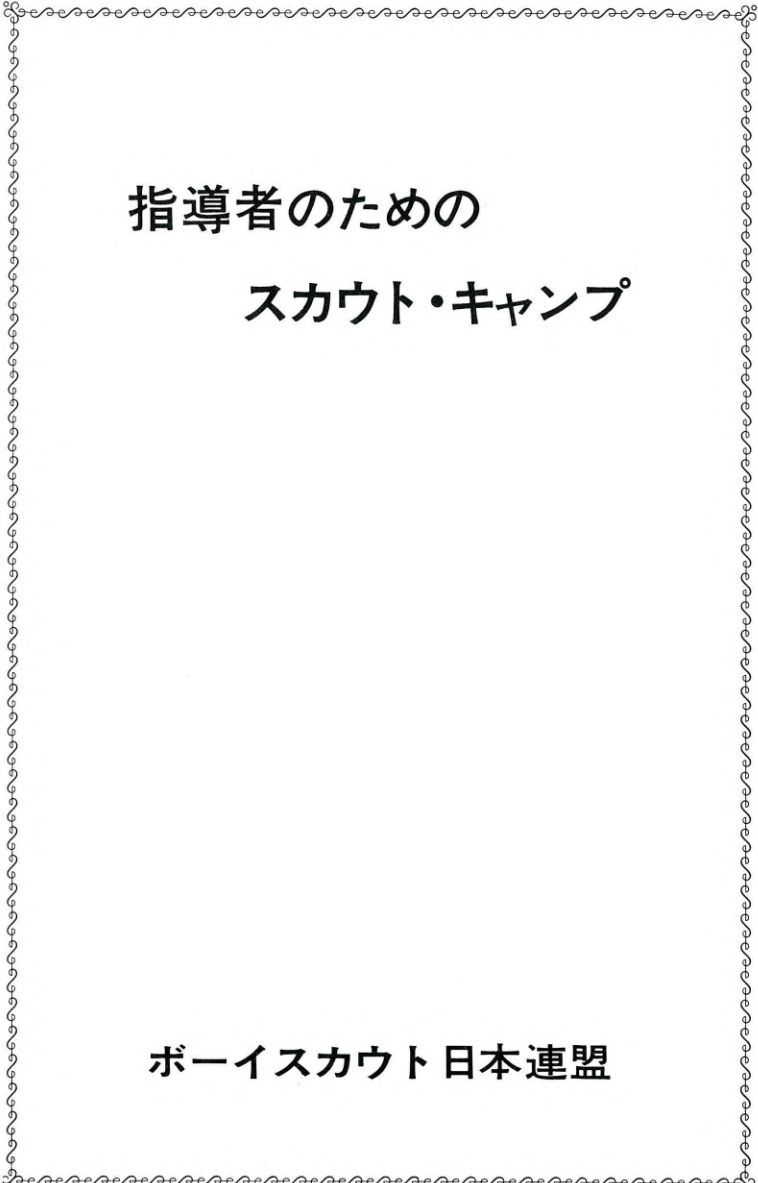


指導者のための スカウト・キャンプ



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟



指導者のための
スカウト・キャンプ

ボーイスカウト日本連盟

目 次

I スカウトキャンプの基本

- § 1 スカウトキャンプとは何か…………… 2
- § 2 スカウトキャンプの種類…………… 4
- § 3 スカウトキャンプの規則…………… 6

II スカウトキャンプの実際

- § 1 計画と準備…………… 10
- § 2 設 営…………… 20
- § 3 安全と健康…………… 38
- § 4 生活指導…………… 48
- § 5 キャンプ用具と携行品…………… 63
- § 6 野外調理…………… 69
- § 7 宗教儀礼…………… 78
- § 8 キャンプファイア…………… 80
- § 9 撤 営…………… 85
- § 10 評 価…………… 89

I スカウト・キャンプの基本

§ 1 スカウト・キャンプとは何か

ボーイスカウト活動の中で、キャンプは最大の冒険である。大自然の中での歓喜にみちたキャンプ生活は、スカウトに、無意識のうちに自然の偉大さを体得させ、生きる喜びと新しい希望を与える。大自然の神秘や自然の景物を目のあたりにすることによって、スカウトにとって自分自身の存在を内面的に考察する絶好の機会ともなり、スカウトの信仰心を養い、良き社会人を作り出す動機づけをすることができる。さらに、自然の中での生活は、物質文明から離れて、原始社会におけるような、食物と安らぎを求めようとする作業のうちに、自発的に開拓者、冒険者としての有用な技術と知識と独立心と創造力を少年に学びとらせていく。キャンプを通じて、指導者とスカウトは、深い信頼と理解に結ばれ、班の共同生活は、指導性と責任感と友情とを培い、お互いに忘れられない思い出として心に焼きつけられる。

しかしながら、スカウト・キャンプは、単なるレクリエーション、楽しい休日でとどまるものではなく、それ以上のものである。

B-P 卿のつぎの言葉を忘れないようにしよう。

“スカウト・キャンプは、隊長にとって真のスカウティングを実際にスカウト達に行わせる絶好の機会である。スカウト訓練という立場からすると、大規模なキャンプより小規模のものがよい。理想的なスカウト・キャンプは、すべてが班制のもとに運営され、各班は別個の単位であり、それぞれの領域をもち、班ごとに炊事をし、他に

頼らない。”

つまり、スカウト・キャンプは、班制度のもとで運営される。スカウトは、独自のリーダーシップを持った班に属し、その中で班の一員として分担した役割を果す。

ところで、スカウト・キャンプは、スカウティングの目的ではなく少年を、スカウティングの目標である、よりよい市民に育てあげするための最良の方法である。その運営にあたる指導者が、その方法を正しく理解し、その目的に向っての計画と実行が伴って、初めて教育の効果をあげることができる。すべてのスカウトにキャンプに参加する機会が与えられるように配慮されなければならない。

教育規定 1-3 本連盟は、ボーイスカウトの組織を通じ、青少年がその自発活動により、自らの健康を築き、社会に奉仕できる能力と人生に役立つ技能を体得し、かつ、誠実、勇気、自信及び国際愛と人道主義を把握し、実践できるよう教育することをもって教育の目的とする。

1-4 ボーイスカウト運動は、「ちかい」と「おきて」の実践を基盤とし、ベーデン・パウエル の提唱する班制教育と、各種の進歩制度と野外活動を、幼年期より青年期にわたる各年齢層に適応するようにビーバースカウト、カブスカウト、ボーイスカウト、ベンチャースカウト及びローバースカウトに区分し、成人指導者の協力によってそれぞれに即し、かつ、一貫したプログラムに基づいて教育することを基本方針とする。

§ 2 スカウト・キャンプの種類

スカウト・キャンプは、構成の単位からみれば班キャンプ、隊キャンプ、単独のキャンプ、地区、県連などのキャンポリー、日本連盟、各国連盟主催のジャンボリー等がある。また訓練方法からみれば、1泊キャンプ、長期キャンプ、固定キャンプ、移動キャンプ、ワークキャンプ等がある。

なお、カブスカウトはまだ身体的に無理があるので、テントを用いてのキャンプは行わない。

移動を伴うベンチャーキャンプおよび奉仕を中心としたワークキャンプ等は、ベンチャー隊以上に限られるべきである。

1. 班キャンプ

班は、スカウト活動の基礎となる活動単位である。スカウティングの基本的なプログラムは、すべて班において実施される。したがって、班キャンプは、大いに奨励される。通常、班キャンプは、短い日時で、団本部から比較的近い地域で行われるものである。

2. 隊キャンプ

1年の教育の総仕上げとして、通常隊キャンプは、夏季に長期にわたって行われる。隊キャンプは隊長にとって、朝から晩までたえまなく少年達と触れあい、少年達を知るいちばんよい機会となる。

3. 単独キャンプ

スカウトは、自ら研さんのため、単独キャンプをすることがある。

4. ジャンボリー JAMBOREE

ボーイスカウトの野営大会で、ひとつの国または地域的・国際的・世界的規模で開かれるものをいう。

人種・宗教・言語・習慣の違いを越えて、ひろくスカウトの交流と親睦を深める。

5. ジャンボレット JAMBORETTE

ジャンボリーより小さな規模のもので、国家的または地域的・国際的なスカウトの野営。フィリア、コロボリーなどもある。

6. キャンボリー CAMPOREE

地区あるいは県連・地方の規模で開かれるスカウトの野営大会をいう。カブの大会は、通常ラリーと称している。

7. アグーナリー AGOONOREE

1国あるいは数か国の障害スカウトが集まって開く行事。単にアグーンということもある。

§ 3 スカウト・キャンプの規則

ボーイスカウト日本連盟のキャンピングの一般方針

1. 隊キャンプ，班キャンプ，その他いかなる形態のキャンプにおいても，常にスカウト・キャンピングの最高の理想的方法がとられなければならない。

2. 年間計画において，キャンプの経験をすべてのスカウトに与えるよう配慮することは，団委員会の責任である。

3. キャンピングプログラムに適した十分なキャンプサイトの確保に，各県連盟は努力する。

4. すべての野外活動において，安全の確保に最善の努力が払われなければならない。

5. すべてのスカウトおよび指導者は，わが国の自然—森林，河川，土壌，海洋，動物，植物の保護に最善の努力をつくす。

1. 班キャンプ

(1) 隊の指導者の十分な助言のもとに計画され，隊長に申請して，その許可を得なければならない。

(2) そのキャンプ地は，団本部から近い地域でなければならない。隊指導者は夜間にキャンプを訪問し，安全を確認することが必要である。

- (3) 隊長は班キャンプの許可に際して、団委員長および地区コミッショナーに届け出なければならない。
- (4) 班キャンプの実施にあたっては、とくに保護者の了解を得ているかどうかを、たしかめることが必要である。

2. 隊キャンプ

- (1) ボーイスカウト隊においては、十分な予備訓練の後、隊キャンプを実施する。(1泊キャンプを何回も行って体験を積むことが望ましい。)
- (2) 隊キャンプの指導者は、キャンプについて必要な訓練を受け、相当の経験を持っていなければならない。(地区、県連、日連が行う各種訓練に進んで参加して研修につとめる。)
- (3) 隊キャンプでは、同行の成人指導者は、隊長・副長のほかに少なくとも2名以上を必要とする。(団委員、ローバースカウト、先輩、父兄等の中から協力者を得る。)
- (4) 現地視察の後、隊長は1か月以上の余裕をもって所定の用式を用い、団委員長に申請し、その許可を得て地区コミッショナーに届け出る。

3. 単独キャンプ

- (1) 計画にあたっては、隊指導者、先輩、上級者等に相談し、隊長に申請して許可を受ける。
- (2) ただし、ボーイスカウトは、隊長の指名した少年幹部または1級以上のスカウトの同行を必要とする。
- (3) 常に隊指導者、保護者と緊密な連絡がとれるように心がけ、危険に対する安全策を考えておく。

4. キャンポリー・ジャンポリー

実施要項に指示された注意事項や申し合わせ事項を守る。他人に迷惑をかけることがないように、スカウトらしい態度と心構えを持つ。

5. 県外でのキャンプ

スカウトや班、隊が県外でのキャンプを計画する場合には、次の手続きを必要とする。

- (1) 所属県連事務局に所定の書類を提出して、「県外旅行紹介状」の交付を受ける。
- (2) 目的地に到着した時、すぐその県連事務局へこの紹介状を持参するか、電話で連絡する。
- (3) キャンプ終了後、所属県連コミッショナーにキャンプ報告を提出する。（世話になった方々への礼状も忘れないようにしたい。）

6. 海外でのキャンプ

海外でのキャンプは県連盟・日本連盟と十分な連絡調整が必要であり、「スカウトの海外渡航に関する取り決め」によって実施されなければならない。

II スカウト・キャンプの実際

スカウト・キャンプの基本は、ボーイ隊の夏季に行われる長期の固定キャンプである。日ごろの訓練、隊集会、ハイキング、1泊キャンプ等は、すべて夏季キャンプを目ざす準備訓練である。ここでは、スカウト・キャンプの基本として、ボーイ隊の夏季キャンプについて、必ず守らなければならない事柄を要約したもので、この基本をよく研究し、経験を重ね、情況に適した応用と補足によって、さらにいっそう自分達のキャンプを充実向上させるよう心がけてもらいたい。ベンチャー隊の移動キャンプ、ワークキャンプ、ローバー隊の遍歴等は、この基本を充分身につけた後に実施してほしい。

§ 1 計画と準備

スカウティングにおけるキャンプは、教育の手段であるが、スカウトにとっては最大の魅力である。日ごろの訓練の成果が、キャンプの成功、失敗の鍵をにぎると言っても過言ではない。

1. 事前の訓練

(1) 指導者

長期キャンプの責任者となるには、キャンプ訓練を受け、相当な経験をもっていなければならない。地区、県連、日連が行う各種の研修や訓練に進んで参加して研究につとめるとともに、先輩指導者の経験談を聞いたり、参考書なども読み、さらにスカウト達とともに1泊キャンプの体験を重ねながら、いろいろな方法で自分の能力を高めて行くのは、指導者の義務といえる。

(2) スカウト

スカウトに対するキャンプのための訓練は、入隊したその日から始まる。夏季キャンプに参加するスカウトは、少なくとも出発までに次の点について教育を修了していなければならない。

- ① 初級、2級、1級の進歩課目は、有能なキャンパーの基礎要素である。特に健康・安全、救急法、結索法、野外料理法は時間の許す限り繰り返し練習し、程度を高め熟達させておく。

② 次のことは年間を通じて、隊集会やハイキングや一泊キャンプで、ゲーム、班対抗競技、実習作業として訓練プログラムに組み入れるとよい。

- 炊事と食器洗い、かまどの作り方。
- 寝床作り（グランドシート、敷わら、毛布などの正しい使い方）
- テントの張り方、たたみ方
- 代表的なキャンプ工作
- 個人携行品とその使用法、
- リュックサックのつめ方、背おい方
- 荷物の荷作り法
- キャンプ用具の取扱い方
- テント内および寝具の乾燥について
- ねまきを着てねる習慣について
- 自分の健康管理と身体の清潔
- ゴミ、汚水の処置
- 便所の作り方と使い方

2. 事前の健康管理

- (1) 医師による事前の健康診断を行う
- (2) 破傷風の予防注射を行う
- (3) 個人カードの整備（体重測定、出発前数日間の体温、便通、持病、癖等の記入）をさせる。
- (4) 少なくとも一週間前から、過労をさげ、睡眠時間と栄養を充分にとり、身体の調子を整える。

3. キャンプ地の選定

スカウトキャンプを楽しく、より効果的にするために、よいキャンプ地の選定が重要な条件であり、キャンプの目的、規模、プログラムにかなった場所を選ぶことが大切である。

(1) キャンプ地の基本的条件

- ① 水利がよく、かつ水質がよいこと。
- ② 樹木があって、燃料が豊富なこと。
- ③ 地形がゆるやかで、排水がよいこと。
- ④ 日当りがよく、かつ強風が直接当たらないこと。
- ⑤ ゲームや作業をするのに適した広場や、できれば水浴場があること。
- ⑥ 他人の出入りのはげしくない静かな場所であること。
- ⑦ 食糧、なるべく新鮮なものが現地の近くで調達できること。
- ⑧ 有害な昆虫や有害な動植物のないところ。
- ⑨ 交通、物資の輸送になるべく便利のよいところ。

(2) 現地視察における注意事項

- ① 最悪の天候のときのキャンプ地を予想して、すべての条件の適否を決めること。
- ② 所轄の役場の係の人や、近くの農家の人などにあつて話を聞く。伝染病、有害な昆虫、動植物の有無、運搬や食料調達の便、時にはそれらの予約について確めること。
- ③ 同じ時期に、他の人達と同じ土地を使うことになっていないことの確認も行うこと。
- ④ 土地所有者の許可を受けておくこと。

- ⑤ 商店、医院、郵便局、電報電話の便、警察署、消防署、役場等の所在を確め、使用キャンプ地についての意見を聞き、事前に連絡をしておくこと。
- ⑥ 見取図を作る。できれば写真を写し、団、隊の関係者、隊員にキャンプ地について周知徹底しておくこと。
- ⑦ 国土地理院発行の地形図や、調査記録を参照して、プログラムの可能性を調べること。
- ⑧ 鉄道、バス等の交通機関の調査を行い、特に所要時間、発着時間、運賃、予約、割引等の調査と交渉をしておくこと。
- ⑨ キャンプ地によっては、下車地点から相当離れている場合があるので、重い荷物や大きい荷物の輸送について調査、手配しておくこと。
- ⑩ 所轄の県連盟または地区との連絡を緊密にし、キャンプ予定地についての状況や、注意事項等意見を聞いておくこと。

以上キャンプ地は自然の資源が豊富で、安全である場所を選ぶことが大切であり、できる限り、著名な観光地や海水浴場は避けるとよい。また必ず一度は現地視察を行い、自分の目で確かめることが原則である。できればテントを張り、1泊すると夜の状態を確認することができる。

ここにキャンプ地の条件についての採点例を表示するので、参考にするとよい。

<野営地の採点例>

	0 最悪	2 悪	4 可	6 良	8 優	10 理想的
位置	市街地	街はずれ	郊外住宅地	農地	原野、牧場	山林
排水	湿地	いっ 溢水の可能 性あり	排水緩慢	一方向に 排水良	二方向に 排水良	三方向に 排水良
土質	不潔な堆土	粘土質	岩石や 砂れき	砂地	砂利層上に 砂	砂利層上に ローム土
地表	はだか地	雑草	刈株	耕地	牧草、野草	芝生地 (良質)
地形	急傾斜	平地	10～12% 傾斜地	5～8% 傾斜地	ゆるやかな 傾斜地	ゆるやかな 傾斜地
樹木	なし	低木・藪	若木、雑草	20～30年 の造林地	古い造林地	原始林
水利	なし	遠い	急坂運搬	良質井戸遠 い	良質井戸近 い	良質な冷水 豊富
水浴場	深い急流	深く流れ静	安全な深さ と流れ	澄んで安全 な湖沼	清潔で安全 な湖沼で岸 は土・岩	清潔で安全 な湖沼で岸 は砂地
燃料	なし	軟木少しひ ろえる	軟木最少限 度ひろえる	立ち枯木あ りひろえる	立枯の堅木 松類あり	原生林で自 由にひろえ る
公衆	無理解	物見高い	行楽者多し	理解ある人 あり	親切で理 解あり	無人
有害物	毒虫	蚊・ぶゆ	人をさす虫	はえ・有 害植物	ほとんどな し	なし
交通	遠く不便	便利だが遠 い	不便だが近 い	自動車が かろうじて入 る	自動車が 入りあまり遠 くない	自動車が安 全に入り 近い

4. キャンプの日程

スカウト・キャンプの日程は、目的、規模によって慎重に考慮され計画されるが、いちばん重要なことは、出発前にキャンプ全期間のプログラムができていることである。

(1) プログラムについての注意事項

- ① 全面的にスカウト達の実習と進歩の機会となるように組み立てるべきである。特に野外でないとできないような進級課目への配慮が必要である。
- ② キャンプで参加者全員が、少くとも一歩進歩することをねらいとする。進級考査のためのハイキングに出かけるのは、スカウトにとって誠に好都合である。
- ③ スカウト達は規律ある野外活動を望んでいるので、だらだらしたプログラムはたてるべきでない。キャンプ全体を真のスカウト活動で充満させるよう考慮するとよい。
- ④ 各班が独自のプランで活動できる日や、スカウトが単独、あるいは仲間数人と、自分の課題をもって探索にでかける機会を作るのもよい。
- ⑤ プログラムの中に適当な自由時間を設けて、自発活動を奨励することもよい。
- ⑥ 1日ハイキング、1泊ハイキング、ワイドゲーム、夜間ゲーム等が行われる時に、次の日の起床時間を遅くする等プログラムに弾力性をもたせることが必要である。
- ⑦ プログラムに必要な教材は、必要用具のリストを作って調達し、当日あわてないよう準備しておくとうよい。

- ⑧ 雨の日の代替プログラムを必ず考えておかなければならない。



(2) キャンプ地での標準日課

キャンプでは、起床、洗面、掃除、点検、朝礼、体操、食事、休息、就寝等が日課の中でまずとりあげられる。プログラムの内容によって日課の内容も多少異ってくるが、要は融通性、弾力性をもたせ、スカウト各自がその日課に従い、自由と規律に満ちた生活ができるように計画することが大切である。

ここに夏季キャンプの標準日課表を参考に示めすので、これを基準にしてプログラムを作るとよい。

夏季キャンプ標準日課表

- 6 : 00 起床、洗面
朝食、後片付け
清掃、整とん、乾燥
- 8 : 00 点検、講評

	朝礼，国旗掲揚
9：00	午前のプログラム
11：30	プログラム終了
	昼食，自由時間（静粛時間）
13：30	午後のプログラム
17：30	プログラム終了
18：00	国旗降納
	夕食，班作業
19：30	夜のプログラム
20：30	プログラム終了
21：00	就寝
21：30	消燈

(3) 献立

スカウトにとって、日ごろの訓練が正しく充分に行われていたならば、1週間分の献立を作ることはたいしてむずかしい作業ではない。

献立には次のことが考慮されなくてはならない。

- ① キャンプ全期間の食事について、献立と所要食料の量目表は事前に決定しておく。
- ② あきないように、また栄養的にかたよったり不足のないように、材料や調理方法に変化をもたせる。
- ③ 悪天候、プログラムの変更、調達などに即応できるような融通性をもたせる。
- ④ 非常の時や、急を要する時の用意をしておく。

- ⑤ 食べるだけでなく、作ることに大きな意義があることを
忘れないようにする。

5. 備品、携行品の調達、整備

個人、班、隊の備品、携行品、特にテント、工具、炊事具、救急用具、環境衛生資材、プログラムに必要な教材の点検、補修、調達を行っておかなければならない。キャンプの目的、規模を充分考慮して準備すること。なお詳細についてはキャンプ用具の項を参照のこと。

6. 家庭への連絡

現地視察の結果を団会議、団委員会で検討し、キャンプ地の決定と実施に関する団委員長長の許可をえたならば、できるだけ早く、つぎのことを家庭に通知すること。

- (1) キャンプ地の場所、できるかぎり詳しく。キャンプ地の連絡方法等
 - (2) 日程について、集合場所、出発時間、父兄訪問日、帰着予定日時等
 - (3) 携行品について、スカウト・キャンプに必要な個人の携行品等
 - (4) 費用について、参加費、交通費、小づかい等
 - (5) 参加指導者について、指導責任者、同行指導者その他成人協力者の名前等
 - (6) 参加申込みについて、両親の参加承認、学校によっては学校長の参加許可書等
 - (7) 健康状態について、健康診断、個人の健康カードの整備等
- 以上のことを家庭に連絡すると共に、詳細なキャンプ実施要項

を作り、両親を安心させることの配慮が必要である。

7. 実施手続

スカウト・キャンプの実施にあたっては、その目的の達成と、安全のために次の手続きを必ずとること。

- (1) 団会議、団委員会の議をへて、団委員長の許可を必ずとること。
- (2) 地区コミッショナーに実施要項をそえて必ず届け出ること。
- (3) 県外でキャンプする場合は、日本連盟、県連盟で定める所定の手続をとること。
- (4) キャンプの実施にあたり、不測の事故に対処するため傷害保険等に入っておくこと。
- (5) 手続は少なくとも2週間前までに完了しておくこと。

§ 2 設 営

1. 配置と設計

配置計画は、現地調査の結果からすでに決まっているであろうが、その後の変化もあるから、現地についたらすぐ、短時間で、隊長と班長全員がキャンプ場内をまわって、実際の配置を打ち合わせて決定する。配置を決める上で、気をつけなければならないことは下記のとおりである。

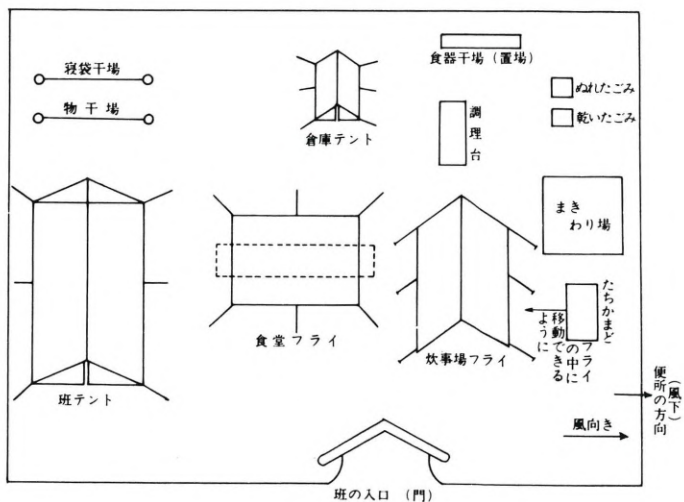
- (1) 班は独立した別々のサイトをもつ。近づき過ぎないように、できればお互にサイトが見えない場所がよい。
- (2) 指導者のテント、掲示板、国旗掲揚柱は全体のほぼ中央にすると便利である。
- (3) 各班は自分のテントの近くに、班ごとに炊事場をもつ。
- (4) 便所は班ごとに作るのがよいが、共同で使用する便所を作る場合は、すべての施設の風下に作る。どの班からもなるべく同じ位の距離の所に作るのがよい。遠くても 100m 以内とする。夜間使用を考慮して標識をつけるとよい。
- (5) 倉庫テント、救護（病人用）テントは指導者テントの近くの日かげに設けるとよい。
- (6) ゴミ焼場は風下につくる。
- (7) 水汲み場はなるべくサイトの近くにつくる。

2. 班のキャンプサイト

キャンプの種類や目的によって、キャンプサイトの作りかた、

各施設の設営や配置もことになってくるが、ここでは長期固定キャンプの班サイトについて一例を示すことにする。立地条件などを考慮して開拓と改善の到達目標をたて、自分たちのサイトの建設に意欲と抱負をもって、創意工夫された計画、設計をすることが望ましい。居住性がよく、健康的で、活動に適したサイト作りがポイントである。

班のキャンプサイトの一例



3. 設営

- (1) キャンプサイトが決定したら、各班はそれぞれあらかじめ設計したように、各班員の分担任務にもとづいて設営にとりかかる。作業の順序はいちばん要求度の高いものから始める。
- (2) 指導者は、自分達のテントと救護（病人用）テントをはる。
- (3) 各班は、奉仕スカウトを出して共同使用施設を設営する。
 - ① 便所を堀り、目かくしを設ける。
 - ② 隊用ゴミ穴と焼却がまを作る。
 - ③ 水汲み場、洗い場の整備、国旗掲揚柱、掲示板をたてる。
 - ④ 倉庫テントをたて、担当指導者（倉庫係）の指示によって品物をテント内に収める。
- (4) 上級班長と隊付は、隊長の指示にしたがって各班の設営状況を見てまわり、助言や指導を与える。
- (5) 隊共同使用の施設の設営が終わったら、班全員でおのおの荷物をテントに入れて整理し、まきを集め、班の炊事にとりかかる。

4. テント

(1) テントの種類

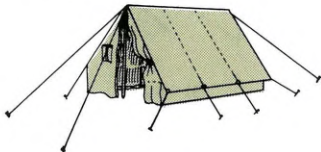
テントの種類は基本的に分類すれば、形で分ける方法、支柱の本数で分ける方法とがある。いずれにせよ、キャンプの目的によって異り、また張り方にも相違がある。目的に従って採用することが必要である。

なお季節的に夏用テント、冬用テント並びに利用面から固定キャンプ用テント、移動キャンプ用テントに用途別分類することができる。

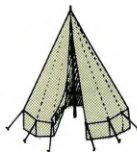
ア. テントの分類

(ア) 形による分類

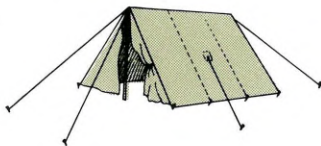
(1) 家形



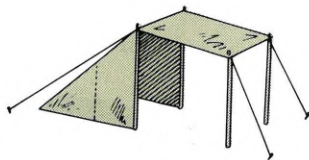
(4) 円すい形



(2) 屋根形

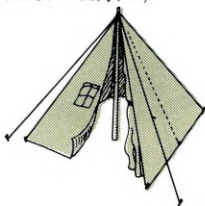


(5) 片屋根形



(3) 三角形

(三角すい・四角すい)

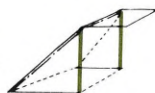
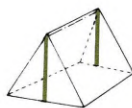
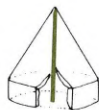


(イ) 支柱による分類

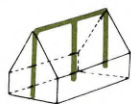
(1) 支柱1本



(2) 支柱2本



(3) 支柱3本



(4) 支柱4本



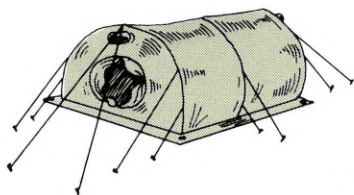
(5) 多支柱



(ウ) 用途による分類

(1) 冬山用

かまぼこ形

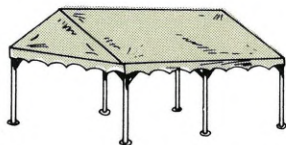


ミード形

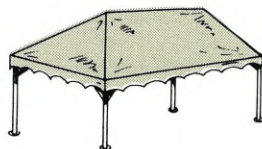


(2) 集会用

H形

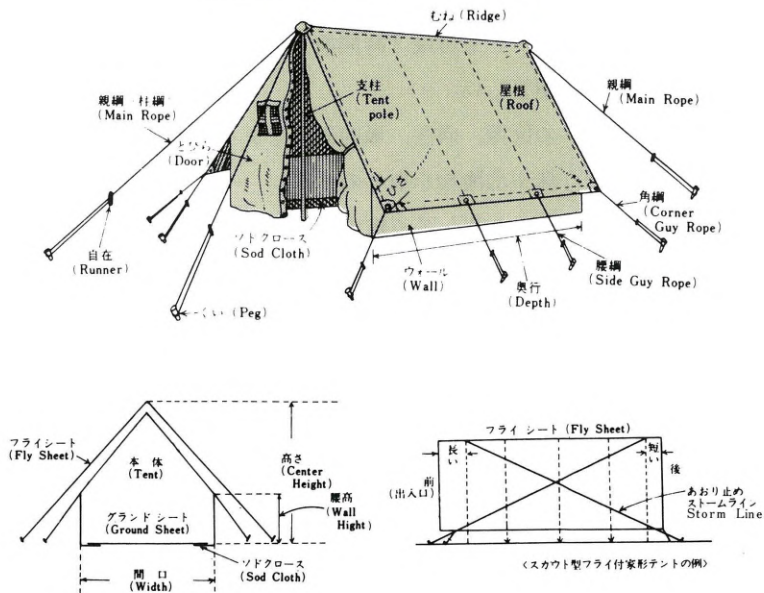


Y形



テ ン ト

家形テント (Wall Tent) 各部の名称



(2) テントの構成と各部の名称

テントは布、木または金属、綱により構成されている。

- ① 布はテント本体、フライシート、グラウンドシート、ソドクロス、袋に使われている。
- ② 木または金属は、支柱、むね、くい、ピン、自在（ランナー）つちに使われている。
- ③ 綱は、親綱、腰綱、角綱、むねおよび縁などに使われている。

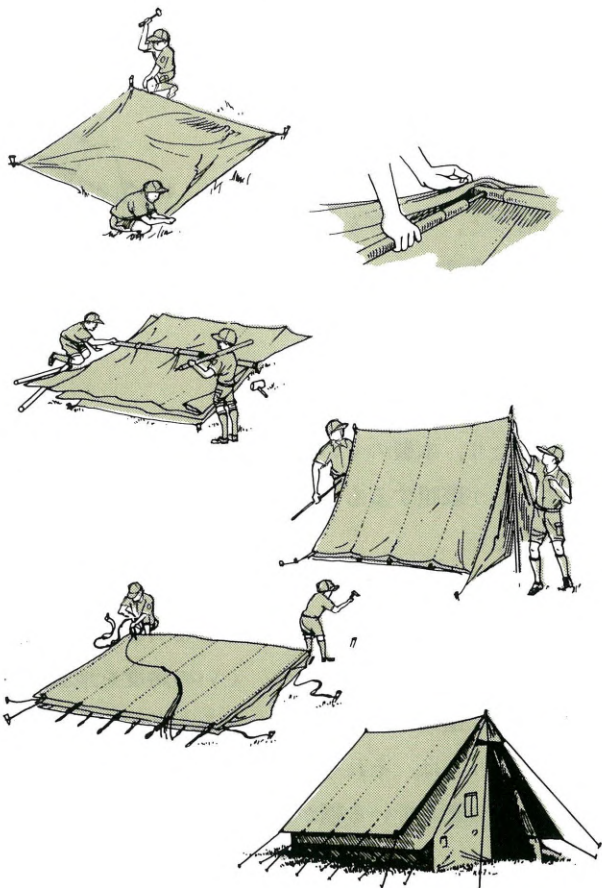
(3) テントの張り方

テントの位置は地形や地物、風向きなどを充分考慮に入れて決める。少なくとも日没3時間前までには設営地につき、張り終えるのが望ましい。

- ① テントの位置、向き、風向きなどを考えて選んだ所を整地し、切り株や危険物を取りのぞく。
- ② 部品を袋から出して点検する。
- ③ グランドシートを予定の位置に広げ、四隅を止め、柱の位置をきめる。
- ④ シートの四隅を基準に、親綱のくいを仮打ちする。
- ⑤ テントの本体の前後をたしかめ、予定の位置に外面を上にしてひろげる。
- ⑥ 支柱（骨組みなど）をつなぎ、支柱をテントのむねにある鳩目穴にさし込み、親綱をかけて立てる。
- ⑦ 親綱の長さを調節しながら、地面と柱とむねの角度をたしかめる。
- ⑧ テントのとびらを閉めて支柱に固定し、四隅の腰綱（角綱）の調整をする。くいは本打ちをする。
- ⑨ 腰綱のくいを角綱のくいと一直線にそろうように打ち、綱の長さを調整する。（ただし強く張らない）
- ⑩ 親綱、角綱、腰綱を調整してテントの不整を直し、ソドクローズをグランドシートの下に正しく敷き込んで結び合わせ、すそをピンでとめる。
- ⑪ 張綱は、気象の変化につれて絶えず張り具合を考え調節す

る。風が強いときは強めに張り、夜や雨のときは少しゆるめて、テントや綱が痛んだり切れるのを防ぐ。

⑫ 雨にそなえて、テントのまわりに溝を堀る。



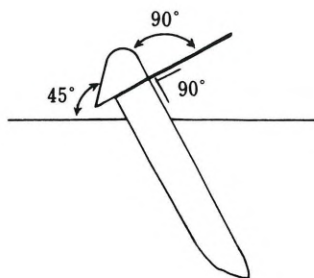
(4) くいの打ち方と張綱の張り方

くいはテントを安定させるためのものであるから、地質などを考え合わせて、合理的に打たなければならない。

原則的なくいの打ち方は、地面に対して、くいを45度前後の角度で打ち、張綱との角度が90度になるのが最も理想的である。

なおくいを打つ場合は下記のことを注意すること。

① ロープをかけたままくいを打つと、ロープを傷つけたり、角度が狂ったりするので、ロープをはずして打つこと。



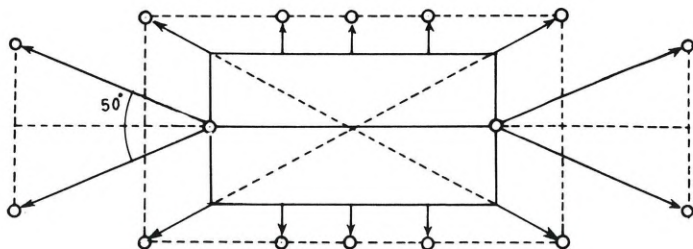
② 金属性のくいを木づちで

打ったり、木製のくいを金づちで打ったりすると、ともにいずれかが破損するものになるので、そのようなことはしてはならない。

③ 土にくいこんだくいを抜くときには、必ずそのまわりを掘って抜くこと。ロープをかけたまま引き抜かないこと。

④ 砂地のようなところでは、くいの角度を地質に応じて調整したり、補助くいをういたりすることが必要である。

張綱の張り方は、それぞれ力学的に綱の方向を決めるべきである。どれ一つ遊んでいる綱があっても、テントは正しく張ることはできない。



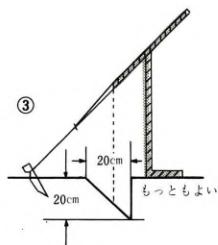
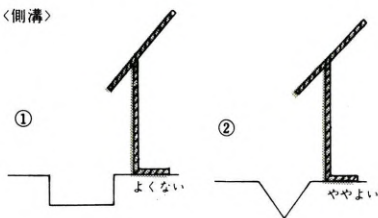
(5) 溝の掘り方

テントの側溝は、テントが張り終ると同時に、晴雨にかかわらずすぐ掘るべきである。溝掘りは完全に行い、夜半に雨が浸水して来たり、夜中に起きて堀りなおしたりすることのないように掘るべきである。

側溝は雨水がテントの中に流れこむのを防止するために掘るのであるから、溝に雨がたまっては意味がないので、土地の傾斜を利用して流れるようにしなければならない。キャンプ地の地形、条件によって調整することが必要である。

側溝の深さは通常20cm

〈側溝〉

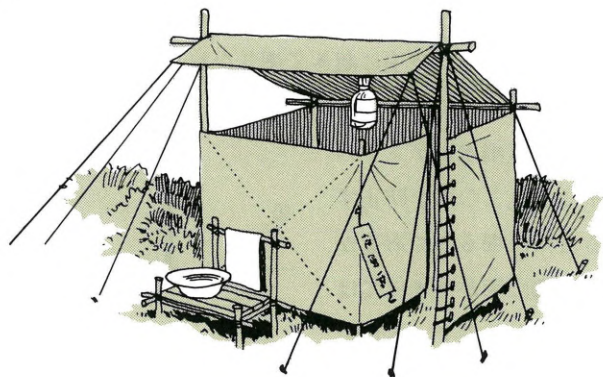


から25cm位がよい。また幅は20cm位がよいといわれている。形としては前頁の図の③がいちばん排水に有効といわれている。

5. キャンプの諸施設

(1) 便所、手洗い

- ① 衛生的で使いやすい便所を設けることが、最も大切なことである。
- ② 衛生上最もよいものは、幅の狭い溝を堀り、使用するたびに堀り出した土で充分覆ってしまう方法である。
- ③ 目隠しは自然物を利用するのが最もよいが、古シートでもよい。



- ④ 目隠しの下部は地面より少し離して、全体の高さは1.8m位とするとよい。
- ⑤ 落し紙(ちり紙)はふたのついた箱かかんに入れて、溝の近くにおく。
- ⑥ 堀り出した土の所に、小さなシャベルをおく。

- ⑦ 手洗い水、タオルは、かこいの外側に備えつけておく。
- ⑧ 8人のスカウトが4日間使える標準便所の溝の大きさは長さ60cm幅20～25cm深さ60cm位がよい。日数が4日以上になる場合は、埋め戻して新しいをつくる。
- ⑨ 別に小便所も作るとよい。小さな穴を掘り、小石を敷きならべて溝で流し出すようにするか、30cm×60cm×深さ60cm位の穴を掘り、穴の中に杉の葉などを押し込んでおくとよい。



- ⑩ 便所の夜間照明、燈火標識を工夫するとよい。
- ⑪ 便所の位置は、水源に影響をおよぼさないよう充分考えて決めなければならない。
- ⑫ 手洗い付近が泥沼にならないように、排水をよくする。
- ⑬ 手洗いの水はいつも充分あるようにし、また不潔にならないように注意すること。

- ⑭ 使用中であることを知らせる工夫も必要である。

(2) 炊事場、食堂

◎ かまど

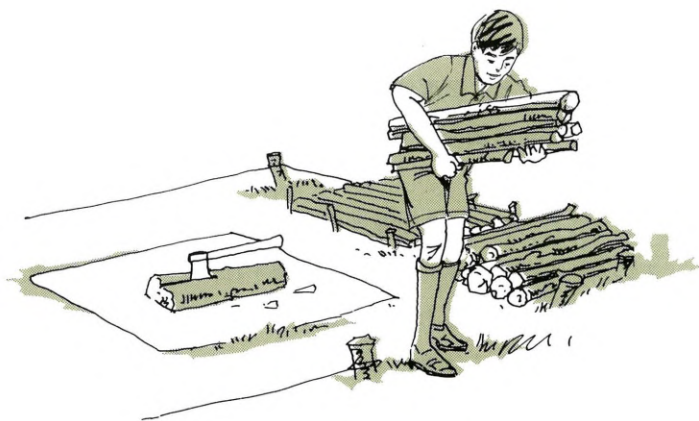
- ① かまどは大きすぎても小さすぎても能率が悪い。人数によって工夫する。



- ② 火床が低いと苦しい姿勢になる。高すぎると危険である。地上式の場合、なべの底がひざの高さ位にくるのがいちばんよい。
- ③ 長期固定キャンプの場合は、立かまどがよい。
- ④ 立木をいためないための配慮も大切である。

- ⑤ 夜間またはキャンプ地をはなれる時には、必ず火種を処理しておくこと。
- ⑥ 雨が火床に降り込まないように、雨おおいの工夫が必要である。

◎薪まきおきば



- ① たきつけ、細かい枝、太い丸太を分類して積み重ねる。
- ② かまど同様、雨おおいをする。
- ③ 薪まきおきばとかまどの関係を充分考慮し、機能的なものにしなければならない。
- ④ 木炭は便利な燃料であるが、雨天などの非常の場合をのぞいては使用しないこと。
- ⑤ テント内では木炭をたいてはいけぬ。ガス中毒の危険がある。(テント内ではだか火の使用は、一切禁止されている。)

◎ 汚水穴

- ① 炊事や食器を洗った水は、必ず汚水穴に捨てる。
- ② 場所によって異なるが、地面より40cmから50cm程の穴を掘り、それにふたをつけ、ふたの下10cm位に、ごみ受けのすのこをつける。ごみ受けは竹か木の枝で作った骨組に草などをならべ敷いたもので、上から流れ込んだ汚水の中の脂肪分や野菜くずを受けとめ、水だけを下へ落とす役目をする。
- ③ ごみ受けは日に2度位新しいものと取りかえるとよい。古いものは完全に燃やしてしまう。

◎ ごみの始末

- ① どうしても出てくる野菜くずのような生ごみは、焼き捨てるのがいちばん衛生的である。(乾燥すればジャガイモの皮もエンドウのさやもきれいに燃え切ってしまう。)
- ② かん詰の空かんは焼いてから平につぶして、指示された場所におく。土中に埋めることはよくない。後日使用する者に迷惑をかける。
- ③ プラスチック類の処理は、燃やさずに一定の指示された場所におき、土中に決して埋めないこと。

◎ 食堂

- ① 炊事場や食堂には、雨や強い直射日光を避けるためフライシートを張るとよい。なべ、かま、やかんをつるための小道具、食卓、調理台、食器炊事具の棚、手洗い台は、キャンプ工作として創意工夫して作るのが望ましい。

(3) 倉庫テント

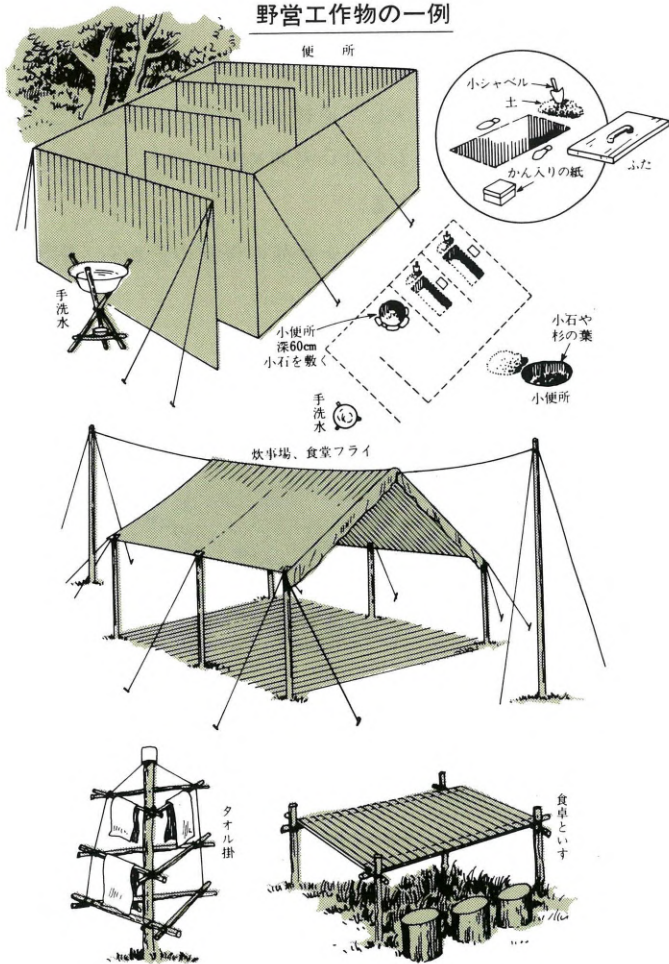
- ① 主として食料を保管することを目的とするので、なるべく日かげの場所がよい。
- ② いつも清潔にしておかなければならない。
- ③ 保存食料，容器等は決して直接地面の上におかないこと。
- ④ 肉類，牛乳のようなものはいたみやすいので，冷たい風通しのよいところに保管する。
- ⑤ 食料テントは健康・衛生上と食品の保管の上から，宿泊用を兼ねないこと。

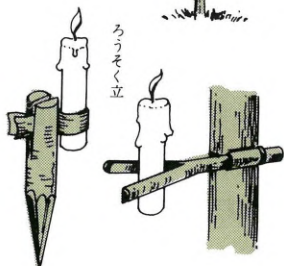
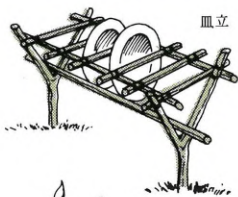
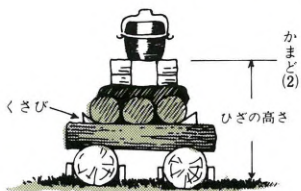
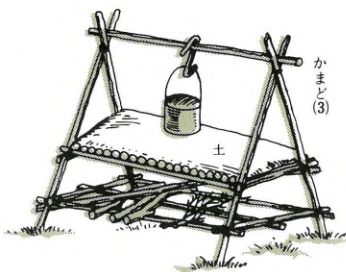
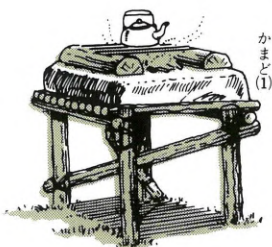


以上が設営に関する基準であるが、あくまでも自然を相手とした生活環境作りであるので、その状況に応じた臨機応変の処置が必要であると共に、キャンプ技術の応用ができるようにしなければならない。すべては創意と工夫にかかっている。

設営施設, キャンプ工作物の一例としてはつぎのようなものがある。

野営工作物の一例





§ 3 安全と健康

1. 安全について

安全はすべてに優先する。スカウトの家族は子供の無事な姿を見るまでは、決して安心できないことをまず銘記すべきである。安全については三つの原則がある。

(1) ルールを守る

往復の車中や公共の場でのマナー、スポーツ、ハイキング、ゲーム等はそのルールを守る。

(2) 当然予想される危険の予防

川やプールにとびこんで事故を起したり、寝不足を知らながら過激な運動をして倒れたりすることなど、当然予想される危険を防ぐこと。

(3) 思いがけず発生する危険に対する処置

万一思いがけず危険に遭遇した場合、沈着に、注意深く、とっさの処置を確実に実施できること。同行する指導者のなかに日赤救急員や救助員の有資格者がいることが望ましい。

2. 健康について

スカウト達は、日常の生活環境とは全く異ったキャンプ生活の下では、初めての経験や、困難に行き当たり、日ごろの訓練で習得した技術や創意工夫を生かし対処して行くが、むしろ異った生活環境から生ずる解放感、緊張のゆるみ、大胆さのために思わぬ疾病、事故を起こす心配があることを銘記すべきである。

健康について、指導者は次の五つの要素を理解すべきである。

(1) 少年の特性を知る

精神と肉体とのアンバランスと未熟さと共に、驚くべき成長、あきやすさ、疲れやすさ等の特性を知ること。

(2) 健康であることを確める

事前の健康診断を参考に、指導者は面接等の手段によって健康状態を観察した上で、積極的にキャンプ教育をする。

(3) 活動に応じた休養と栄養を与える。

規則正しい生活のもとに、適度の運動、活動を行わせ、過労に陥らないようにし、はげしい活動後は休息させる。栄養と睡眠時間を十分とらせるようにする。

(4) 疾病の早期発見

顔色、^{ひん}機嫌、姿勢、食欲、便通、睡眠、体温等の異常を早く発見し、早く処置すること。

(5) 救急法の知識とその活用

傷病の状況を速かに、かつ的確に知り、いつ、どこで、誰が、何をした、今どんな具合かの五つを、医師や119番に電話連絡する。スカウト自身ができる応急手当は進んで行う。

3. 作業と休養と栄養

(1) 作業と休養

作業、休養、栄養に調和のある日程であって、初めて周到な計画といえる。

- ① キャンプ地に到着する時刻は、設営作業が日没までに完了するよう予定されていることが望ましい。到着日の夜間作業

はその日の過労に追打ちをかけ、事故発生に直結する。

- ② 日日の作業は目標と作業の分担、および協同の方針が明らかであれば、厳しくても耐えられる。適当な時期に休ませ、汗の始末をさせ、身体を清潔にさせる。



- ③ 作業と発汗との関係を考え、寒いときは、始め少し厚着であっても、作業の状態によって順次脱がせる。真夏にはだかになったり無帽で長時間作業させることはさけるべきである。
- ④ 就寝、消灯の時刻は、その日の作業の程度、あるいは翌日の起床時刻の繰り上げなどによって早めることはあっても、延ばすことは望ましくない。
- ⑤ 指導者が過労に陥ることは、情緒の安定を欠きやすく、楽しいキャンプという目的にそむき、大事故につながる。指導者は常に余力を残し、冷静でありたい。指導者もできる限り早く就寝するよう心がける。
- (2) 睡眠と仮眠（午睡）
- ① ボーイスカウト初級の年齢では、午前6時起床、午後10時就寝の8時間睡眠は最少限の時間である。真夜中12時を越しでの就寝は疲労が著しいため、8時間寝かしても疲労の回復

は困難となる。

- ② 8時間睡眠を最も有効にするには、就寝前に精神と肉体の興奮が静まるように、心静かな夜話等が必要である。
- ③ 寝ぼけ、夜尿症の傾向のあるスカウトに対して、指導者はこころよくその面倒の労をとってやりたい。安心して熟睡できるような信頼関係にありたい。
- ④ 仮眠（午睡）は睡眠と異なる。引続いての作業の途中、例えば昼食後、または真夏の午後2時から3時ごろに、たとえ眠れなくても眼を閉じ、しばらくからだを横たえて過労を防ぐことを目的とする。
- ⑤ 仮眠は60分以内がよい。深い眠りに入る前に起こして次の作業に入る。

(3) 栄 養

栄養は作業による消耗を補てんするだけでなく、全キャンプ生活を通じて、筋肉質な体に変えて行くためにも、量と質に充分の配慮が必要である。

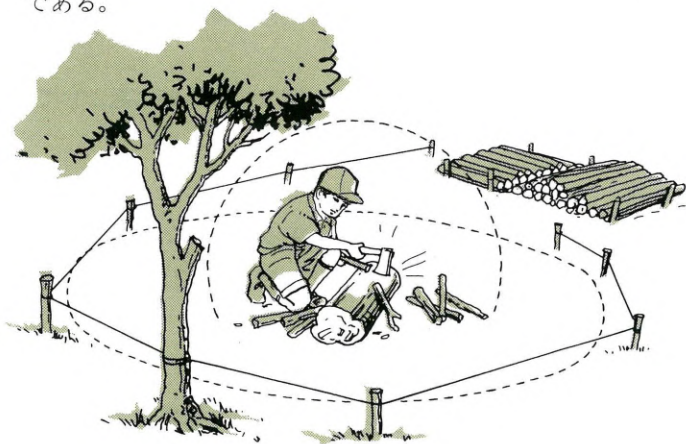
- ① たん白性食品の欠乏がないようにする。
好き嫌いなく、何でもよくかんで食べる習慣をつけ、年齢、体格に応じたカロリーを日常生活より2～3割多くとるとよい。
- ② 生野菜、特に生のまま食べられるキャベツ、トマト、ピーマンや、果物が現地購入できることが望ましい。野草、山菜などは、その判別、調理法に経験と自信のない場合は危険である。キノコ類は特に注意することが必要である。
- ③ 間食は栄養分の不足を補う目的で食べるとよい。菓子類な

ら何んでもよいということではなく、たん白質の多いものとか日ごろの栄養を補うものや果物がよい。

- ④ インスタント食品，人工着色，人工甘味の飲料水等は健康上好ましくない場合があるので注意を要する。

4. 作業時の安全

- (1) 刃物だけでなく、つち、スコップ等の用具は、使い方を誤れば凶器となる。刃物はよく切れるよう、柄が抜けたり折れたり、滑りやすかったりしないように十分整備されていることが肝心である。



- (2) 初級，2級，1級，菊スカウト等，それぞれの級と年齢に応じた指導が大切である。おの，なた，ナイフの使用については特に注意すること。
- (3) 火災防止の配慮，樹木の愛護に心がけなければならない。火をたく前の安全点検をする。木の根近く，または木の茂りの下

で火をたかない。



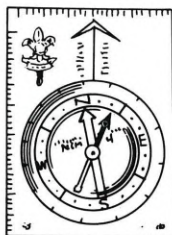
- (4) 結索法の基本が確実にでき、ロープの強度を充分知っていないと、思わぬ事故をおこすことがある。自分や自分以外の人の安全を守る観念をうえつけることも必要である。
- (5) キャンプ第1日は緊張のため事故を起しやすい。高所での作業や激しい作業は避けるのがよい。準備運動を目的とした活動が必要である。
- (6) 夜間作業、夜間ゲーム等は安全を十分に考えに入れて計画し、出発地点、帰着集結地点の確認、ルールの設定その他危険防止の指示を明確にし、指導者の配置、事前の準備等を充分すべきである。
- (7) 手袋の使用は、握りが滑りやすくなる反面、とげ防止、火傷防止などに役立つ。目的によっては皮製か、木綿製がよい。作業手袋（軍手）は必ず用意しておくこと。

5. ハイキングの安全

- (1) 計画にあたって、指導者は必ずその都度事前の実地踏査を行

うこと。コースの設定、途中の安全対策、通過地点の図上確認、所要時間の確認などが大切である。

- (2) 班ハイクまたは班対抗での班行動のときには、ルールの設定が重要である。特に迷った時や事故の際の処置、連絡方法の設定等が大切である。
- (3) 防寒、防水に注意すること。山岳地のキャンプ地では、寒くなくても霧のため体がぬれたり、風が強く、寒さが厳しいことがあるので防寒が必要であり、また森の中では、草むら、枝、葉などからの露でぬれることがあるので、防水に気をつけなければならない。
- (4) 雷、毒蛇、野生動物等に注意すること。特に夏の雷は山路では即死の危険がある。野犬や毒虫にも注意をする必要がある。また知らない洞窟や地下室のようなところに入らないこと。ガスがあったりして危険である。
- (5) 靴ずれ対策をしっかりとしておくこと。乾いた、通風のよい、底の丈夫なはきなれた靴をはくとよい。靴下と足の清潔も必要である。休けい時には足の清拭、マッサージ、靴下の乾燥等をするとうい。



6. 救急衛生資材

次にかかげる救急衛生資材と環境衛生資材は、標準的な例である。目的、場所、期間、人数等によって調整し、十分な準備をした上でキャンプにのぞむことが必要である。

救 急 衛 生 資 材 (例)

	材 料 名	内 容	数 量		
			個人用	班用	隊用
1	創 面 消 毒 剤	マーキュロ、イヒビテン、イソジンなど			
2	脱 脂 綿	圧縮脱脂綿 (50g)			
3	滅 菌 ガ ー ゼ	(30cm×30cm 2 枚入)またはトッバー (7.6cm×7.5cm) など			
4	救 急 絆 創 膏	サビオ、バンドエード (2.5cm×7.5cm)			
		サビオF型 (1m) トラウマプラスト (1m) など			
5	絆 創 膏	(1.2cm×3m) 又はテープ			
6	包 帯	8 裂			
		6 裂			
		4 裂			
7	三 角 布	小			
		中			
		大			
8	は さ み	小 (ステンレススチール製が望ましい)			
		中 "			
9	ピンセット	小 "			
		中 "			

	材 料 別	内 容	数 量		
			個人用	班用	隊用
10	毛抜き, ピンセット	" "			
11	体 温 計				
12	重 曹	(30~50g)			
13	ビニール袋	汚物入れ(ポリ袋でもよい)			
14	過酸化水素液	オキシフルなど(100g), 使用のたびに更新する			
15	アンモニア水	または「キンカン」など			
16	湿 布 剤	パテックスなど			
17	点 眼 液	マイ・テア(7cc)など			
18	眼 帯				
19	食 塩 錠	(0.5g ×100コ)			
20	浣 腸 器	ポリエチレン製が便利である。			
21	浣 腸 液	グリセリン100g(水で2倍にう すめて使う)			
22	浣 腸 坐 薬	固形の肛門坐薬			
23	緩 下 剤	強力ソルペン, コーラックなど (100錠)			
24	メ モ 帳				
25	ライターまたは 防水マッチ				
26	ペンライト				

環境衛生資材(例)

	材 料 名	内 容	数 量		
			個人用	班 用	隊 用
1	殺 虫 剤	速効性のものがよい			
2	防 虫 剤				
3	防 臭 剤				
4	石 灰	生石灰末がよい			
5	消 毒 剤	イヒビテン クレゾール 石けん、逆性石けん			
6	石 け ん				

(注意)

1. 個人の持薬（人によって異なるはず）、医師の投薬（医師の指示による薬）は別に包み、リュックサックに納めておくのがよい。
2. 下剤、抗生物質、その他の医薬品（個人の持薬・医師の投薬を除く）は、医師の許可なくしては使用しないのが原則である。

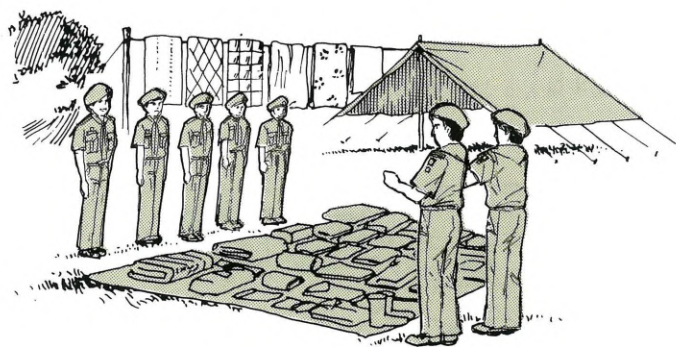


§ 4 生活指導

スカウト・キャンプは、単なるレクリエーション、楽しい休日にとどまるものではなく、それ以上のものであり、指導者にとって、真のスカウティングを実際にスカウト達に行わせる絶好の機会である。自然の中での共同生活を通じて、相互理解、自己の改善、進歩をうながす生活をさせることが主たる目標であり、心と体をみがく生活指導の重要な場である。

1. 点 検

点検は、指導者とスカウト達の間関係における接触の場を作ると共に、キャンプの規律、安全、衛生を確保し、スカウトの進歩を上げます手がかりとして行うものである。



(1) 点検の目標

点検は、スカウト達に対して生活指導の場であるので、次の六つの点に目標をおくとよい。

- キャンプ基準の維持
- 班制と進歩制の維持
- 規律とチームワークの維持
- 整理と整頓および日日の改善
- 健康管理と衛生管理
- 災害防止と安全

(2) 点検の方法

キャンプ生活における点検は、班ごとに正しく制服をきて、キャンプ地内のすべてのものを整頓して毎朝行われる点検と、消灯後各班のキャンプ地を指導者が見まわる、夜の点検とがある。点検は日によって、また状況に応じて重点をかえて行うが、おおむね次の要領で行われる。

① 朝の点検

朝の点検では、主として班員の確認、テントの状況、寝具、衣類、装具、炊事場や便所の状況、健康・衛生状況に重点がおかれて行われる。

ア. 班員の確認

- 全員正装で、班旗を先頭にテント前に整列する。(雨の場合は雨具を着用してもよい。)
- 提出された班報告書により、事故やサイト内の異常の有無を確認する。

イ. テント

- 配置……生活しやすいこと。日照，雨雪，風向，寒暖，地勢，地質，水はけ，草木等に対する考慮がはらわれているか。
- 整備……ランナーの調節，張綱の方向と長さ，くいの打ち方について。
- 乾燥……ウォール，ソドクロス，グランドシートの処理，内部の乾燥。
- 工夫……土地が狭い場合の張綱の処理方法等。
- 整とん……汚損の有無，内部及び周囲の清掃。



ウ. 炊事場

- 配置……作業に便利なこと。衛生的なこと。当番以外の立ち入りを制限する配慮がなされていること。

- かまど……適当な大きさであること。熱効率がよいこと。
作業しやすいこと。
- 食料貯蔵庫、薪^{まき}おきば……清潔衛生的であり、湿気、温度等に対する配慮がなされているか。
- 工具、炊具・食器等……整理、整とんされていること。
手入れがよいこと。危険防止の処置がなされていること。
- 調理台、給排水設備……目的にかなった工夫がなされていること。
- ごみ処理……固形物と水とを完全に分離する工夫がなされていること。
- 進歩、改善……前日と比較して、改善の努力がなされたあとがあること。



エ. 衛 生

- 便所……場所の適否、構造・大きさ、手洗い設備など。

正しく使用されていること。

- 乾燥……寝具、敷わら、マット、グランドシート等。テントの内外の乾燥もなされていること。炊具、食器類は直射日光にあてて乾燥させる。個人の持ち物をリュックサックから出して、風を通すことがされているか。
- 衣類……清潔であること。汚れ物は貯めずに洗濯すること。
- 個人衛生……歯、手足、爪、頭髪等の手入れがなされており、清潔であること。目、顔の色つや、舌の色等を観察し、睡眠、食欲、便通の状況を報告させること。

オ. 実施上の注意

- 朝の点検は、朝礼前に実施する。
- 点検を始める前に信号（合図）で知らせる。抜き打ち点検は行わない。
- 点検は評価のためのものであって、アラ探しではない。
- 朝の点検は、すべて厳格に行う。
- 改善の目標を具体的に提示して激励する。
- 前日に指示したことが行われているか確認する。

② 夜の点検

夜の点検は、主として安全衛生と整理整頓の状況に重点がおかれる。

ア. 安全衛生

- テント……内部換気の配慮。ランナーの調節。フライシートの張り方。排水溝の整備等。特にテント内でローソク等のはだか火の使用は厳禁しておくこと。



- 炊具・工具等……保管状況と安全に対する配慮がなされているか。
- かまど・薪^{まき}……火の始末、火床に対する雨や夜つゆの対策。翌朝のために薪^{まき}が用意されているか。雨に対する対策も考慮されているか。
- 食料品……野犬などの被害を受けない保管がなされているか。
- 汚物処理……1日の汚物、ごみなどが完全に処理されていること。焼却されているか。

イ. 整理, 整とん

- 班備品（炊具・工具）をそれぞれまとめ、いつでも使用できる状態で保管されているか。

○個人携行品はリュックサックにまとめ、身近においてあるか。

○貯水容器は、新鮮な水が満たしてあるか。

ウ．実施上の注意

○夜の点検は消燈直後に行う。遅くとも1時間以内に終ること。

○その1日でどれだけ進歩改善されているか。

○もし安全衛生上不備な点があれば、一応修正措置を施しておき、翌朝講評の時に注意を与える。

○夜の点検は、スカウト達の安全を願って行う。

③ 講評・表彰

○毎朝、朝礼の前に隊長が行う。

○各班の生活状態とその進歩について、評価を発表する。
欠点を指摘してそれを責めるのではなく、良いことをほめ、悪い点は改善を促す。

○評価は工夫、改善、進歩、向上を励ますものとする。

○優秀班を決め表彰を行う。また努力賞のようなことも考えるとよい。

○講評は短く行う。反感をもたすようなものであってはならない。言葉使いに気をつけること。



2. テント生活

毛布1枚にくるまって、あれ地で平気で眠れることを自慢した時代は終り、今日ではいかに快適な、衛生的かつ安全なテント生活ができるかが問われる時代になってきた。テント生活における生活指導の要点はつぎのとおりである。

- (1) 最悪の天候を予想してキャンプ地を選定させる。傾斜が緩やかで、排水のよいところ。日照がよく、近くに木かげなどがあるところで生活をさせる。
- (2) がけぎわやがけ下はさけさせる。また川原は一見安全に見えても、伏流や急な増水などがあるので、適地でないことを教える。
- (3) キャンプ地の蚊、ぶゆ、はえ、あり、野ねずみ、野犬、野猫、毒へび等の対策を考え、周囲に草むらがあれば適当に除草させる。
- (4) テントの地床は入念に整地させる。でこぼこは安眠をさまたげる。
- (5) 十分な側溝を堀り、水の浸入防止と十分な排水によって、テント内の湿気をおさえる。
- (6) グランドシート、ソドクロース、敷わら、ごぎなどの取り扱い方。
- (7) 寝袋の内側に用いる封筒型のシーツ（インナー）、空気まくら、寝巻き、エアーマット、寝台等の使用についての指導。
- (8) テント内および付近ではだか火は、大小にかかわらず、生命の危険に結びつくので厳禁する。蚊取りせんこうや指導者の

たばこも禁止の対象である。

- (9) ガソリンは、テントの内外を問わず、使用を厳禁する。
- (10) テントの近くには、常に防火用水が用意されていること。
- (11) 換気に注意させる。気候、テントの広さ、人数などにより換気窓などの調節をする。
- (12) 消燈の指示を守らせる。静寂が守られているかどうかを注意する。また寝冷えの予防についても考慮しておく。

3. 食 事

- (1) 決められた食事の時間を守らせる。
- (2) 食前に水分を多くとることはつしむ。
胃液を薄め、消化を妨げ、胃や腸など消化器の病気をおこしやすい。
- (3) 食事のマナーは、まず指導者が手本を示してスカウト達を指導する。食前、食後の感謝を忘れないようにして、楽しいふん



い気で食事させる。

- (4) 食事は20分から30分かけて、充分咀嚼そしゃくするのがよい。
- (5) 偏食をさせない。キャンプはなんでも好き嫌いなく食べる努力をする、良い機会である。
- (6) 食前の洗面手洗い、食後の歯みがきを励行させる。
- (7) 指導者は時には各班を訪問し、スカウト達といっしょに食事をするとよい。

4. 水

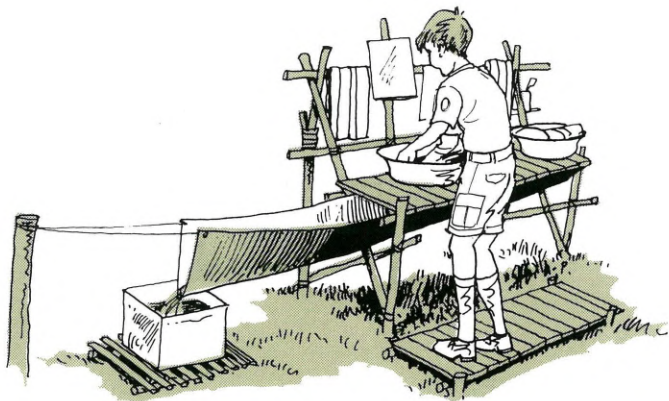
- (1) 塩素消毒された水道水をのぞいて、生水はそのまま飲用しないこと。必ず煮沸したものを飲用する。
- (2) 川の水を利用する場合は、飲用水、炊事用水、食器洗い水、水浴や洗濯の水を、川上から川下にかけてこの順で汲み取る。
- (3) 水汲み場は、常に清潔保持、秩序維持、危険防止に努め、水道の場合は蛇口ごとに使用区分を明示する。
- (4) にごった水しか手に入らない場合では、ろ過器を使用する。
- (5) 通常、水は一人1日30リットルから50リットルを使用量とする。飲料水の適否判定基準としては、外観がほとんど無色とう明であること。無臭、清涼の味であること。肉眼で異物を認めないことをめやすとする。

5. 洗 濯

- (1) プログラムの中で、わずかでも自由な時間が予定されていることが望ましい。そうでないと洗濯する時間もなくなる。

班内で時間を都合しあったり、各人が余裕をつくったりして洗濯することも、自律生活という点で大切である。

- (2) 水汲み場で洗濯をしてはいけない。洗濯場を作って、汚水の処理に十分注意させる。
- (3) 小川で直接洗濯することは、川水を汚染する心配もあるので好ましくない。排水に工夫を要する。
- (4) 泡立ちの強い化学洗剤はさけること。



6. 食糧、炊事場の衛生管理

- (1) 食糧、特に肉、魚、野菜類の整理整頓と保存法
 - ① 風通しをよくすることが第一である。
 - ② 肉類など腐敗しやすいものを購入したときは、まっさきに調理し、また炊事の始まるまでに時間のあるときは、火を通して保存しておく。
 - ③ 肉の塩漬、みそ漬加工したものは夏のキャンプ地では必ず

しも安全とは言えない。

- ④ 比較的安全な保存方法は、冷たい流水の中か、井戸水の中にビニール袋に入れて保存するか、深さ 1.5メートル以上の穴を掘り、底から30センチメートルの所に横穴をもうけて保存しておくといよい。
- ⑤ 野犬等による被害の対策を必ずすること。



(2) 炊事場の衛生管理

- ① 調理台，炊事用具，食器の清潔整とんを必ず行う。食器は洗剤または灰などでよく洗い，煮沸できれば最上である。
- ② 屑，残飯，残菜等の不要物は焼却し，ごみ穴にすてるとよい。すいかの皮でも，干して焼けば灰になる。
- ③ 炊事の汚水（食器洗いの汚水も）はろ過し，残されたものは焼却してからごみ穴にすてるとよい。
- ④ 調理や炊事を原因とする伝染病発生の防止に留意すること。井戸水を使用する時は特に注意すること。

- ⑤ 化学洗剤を必要以上に使用することは、自然を汚染するだけでなく、食品や食器についたまま、摂取される危険が大きい。
- ⑥ 空かんの処理は、かんに開けるときに必ずふたは全部切りはなし、空かんとふたを火中で焼き、つぶして指定の場所にすてること。



7. 水 泳

水泳は危険と疲労をとまなうので、原則としてキャンプのプログラムに組み入れない。キャンプ中の水浴の場合、決して泳がせてはならない。しかし水泳を目的とした教育をする場合は、次のことを厳守する。

- (1) 水泳のプログラムは人命にかかわることでもあり、スカウト、指導者ともに規則を厳格に守らなければならない。
- (2) 許可を受けずに泳いだり、水泳規則を守らないスカウトは、帰宅を命じられることをスカウトと父兄に十分知らせておく。
- (3) 体の調子が悪い者や水泳を禁じられている者は、絶対参加させてはならない。

- (4) 水泳に熟練し、救助員等の資格のある成人指導者がこのプログラムの責任者として必ず付添う。
- (5) 水泳は、公共団体の指定する安全な水域で行う。
- (6) 水泳区域を決め、区域外にスカウトを絶対出さないこと。区域をわけて成人の監視者をおき、その手許に救難用具を備える。
- (7) 準備体操を充分行った上で実施すること。
- (8) 同程度の二人を一組にし、常にお互いに確認しあいながら行動させる。
- (9) 付添者、監視者、責任者は、スカウト達といっしょに泳いだり、遊んだりしてはならない。
- (10) 人命に関する用心は、いくらやってもやり過ぎにはならない。



§ 5 キャンプ用具と携行品

キャンプの用具と携行品とは、テントとその付属品、工具、炊事用具、光熱用品、救急用品、食器類、寝具および衣類、食品、その他の生活用品等である。スカウトのキャンプには、その目的によってキャンプ用具に違いがある。長期間のキャンプ、1泊のキャンプ、固定キャンプ、移動キャンプ、隊キャンプ、班キャンプ等その規模によって、それぞれ充分検討され準備されるべきである。

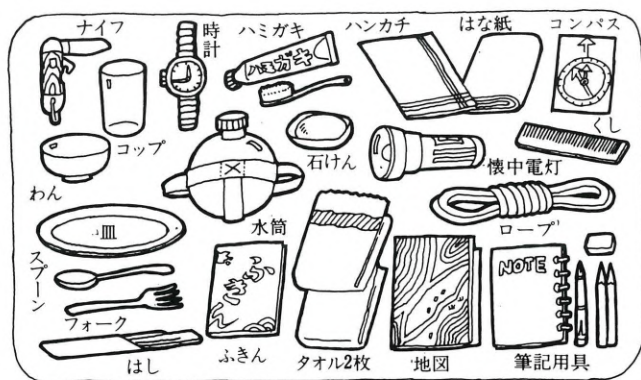
ここではキャンプ用具について、1泊以上のキャンプをするために必要な用具を、個人で携行するもの、班および隊で用意するものに分けて示す。ここに示す用具はあくまでも標準であり、それぞれのキャンプの目的、規模、キャンプ地の条件、気象条件などによって調整しなければならない。

1. 用具と携行品

(1) 個人携行品

- 登録証 ○制服 ○着がえ(衣類、かえ靴下など)
- ねまき(パジャマ) ○作業衣 ○防寒着
- 雨具 ○作業帽または副帽 ○水泳パンツ
- 作業手袋 ○くつ(はきかえ用) ○寝袋または毛布
- エアマットまたは折たたみベッド ○食器類
- 水筒 ○米、非常食 ○かん切り
- せん抜き ○ナイフ ○ロープ
- 懐中電灯 ○マッチ ○洗面具(含ちり紙)

- タオル ○ハンカチ ○補修用具（糸、針、ボタン）
- 新聞紙 ○筆記用具 ○はがき、切手
- シルバ・コンパス ○地図 ○号笛
- 楽器 ○個人用救急用具 ○ハバザック
- リュックサック



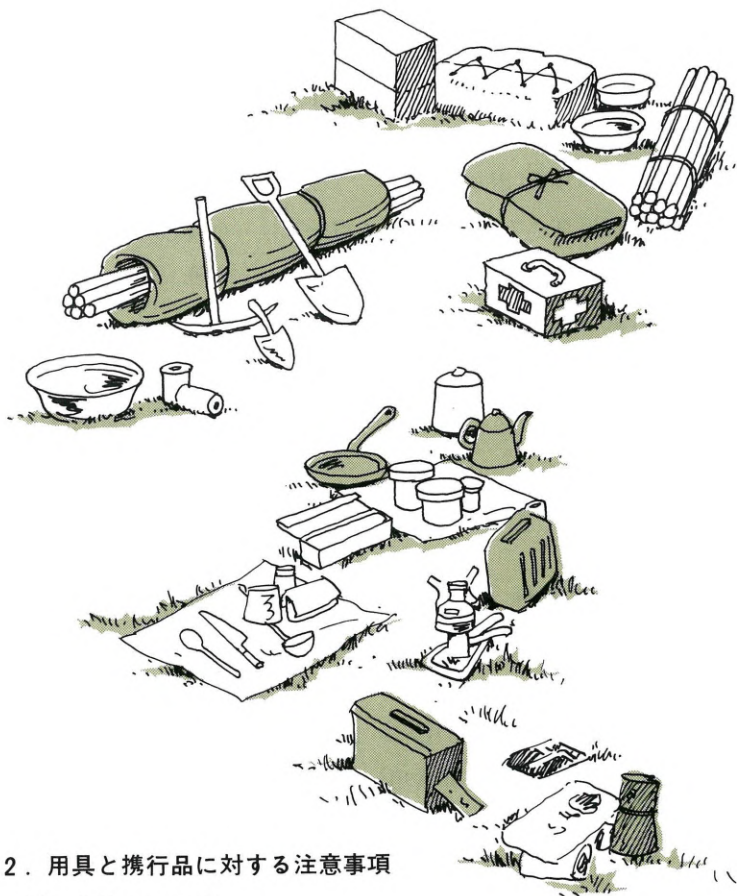
(2) 班備品

- テント ○支柱 ○フライ
- グランドシート ○張網 ○くい
- おの、なた ○シャベル ○つち
- かま ○と石 ○油引き
- ペンチ ○のこぎり ○かけや
- 予備用ロープ ○やかん ○フライパン
- 飯ごう ○炊かん(大中小) ○バケツ(ふたつき)
- 布バケツ ○水ひしゃく ○汁しゃくし

- 飯しゃもじ ○まな板 ○ボール（大・小）
- ざる ○ほうちょう ○焼あみ
- たわし ○ふきん ○洗 剤
- ビニール袋(ポリ袋) ○かん切り ○せんぬき
- 修理用具（スパナ，ドライバー等） ○救急用具
- ランタン(電池式) ○ローソク ○班 旗
- 針金・くぎ ○文具類

(3) 隊備品

- マーキー（大テント） ○指導者用テント（含上級班長用）
- 病人用テント ○倉庫用テント
- 工具（含修理用具） ○針金・くぎ・荒なわまたは麻ひも
- 炊事用具 ○食糧（含非常食）
- 救急衛生材料 ○環境衛生材料
- 国旗・隊旗 ○ロープ・滑車
- 携示板 ○巻 尺
- トランシーバー（市民バンド） ○カメラ ○双眼鏡
- ラジオ（気象情報，非常用） ○スポーツ用具
- ゲーム用具 ○楽 器 ○文房具
- 教 材 ○地 図 ○合図用角笛または号笛
- 目覚時計 ○温度計・湿度計 ○金 庫
- ランタン(電池式・ガス式) ○ローソク
- 強力型ライト(予備電池・球) ○健康診断書(健康保険証写し)
- 参加者名簿（住所録と緊急連絡先） ○班報告書（日誌）
- ハイキング報告書 ○救護・緊急用バーナー(ラジウス等)



2. 用具と携行品に対する注意事項

(1) 荷物のつめ方

班・隊備品はなるべく木箱，トランク等完全なこん包をすること。必ず内容を明示したカードをつけておくこと。

個人携行品は，通常リュックサックにつめるとよい。入れる物の大きさや質をよく考え，すぐに使わないものから手際よく

順々に入れる。衣服類、食糧、食器類は底の方に入れ、洗面用具、小物類、救急用品はその上に、雨具や弁当はいちばん上に入れるとよい。地図、懐中電灯、手帳などはサイドポケットに入れるとよい。

(2) 運搬の仕方

班、隊備品は完全にこん包して、トラックまたは汽車などで早目にキャンプ地におくっておくとよい。食糧品など到着後保管に注意を要するものには、必ず「取扱注意」のマークをつけておくこと。

個人用携行品はリュックサックで背負って行く。その収納方法はよく研究しておく。

(3) 記名の必要

すべてのキャンプ用具には、個人、班、隊それぞれ持ち主が一目で解るように名前を記入し、はっきり区別できるようにしておくこと。特に個人携行品には、食品または消耗品を除いて、すべて名札をつけておくこと。

(4) 危険防止

キャンプ用具中、シャベル、おの、のこぎり、ナイフ等危険なものは、歯先をサックもしくはケースに入れて危険防止をはからなければならない。燃性のもので不燃性のもの、また薬品など使用上危険が想定されるものにも、すべて使用に関する指示を明示したマークまたは名札をつけておくこと。防水が必要な用具に関しても、同じように注意をして管理することが必要である。

(5) 補修と修理

キャンプ用具を格納する前に、破損した物品のうち、軽易なものでは自分達で修理し、テント、工具等の大破損したものは、専門の業者等に出す。刃物の刃こぼれ、のこぎりの目つぶれ等もよく調べ、さび止めをする。テントやロープは特に乾燥を十分にしておいて保管しておく必要がある。いざキャンプという時にこまらないために、内容物の点検は、特にキャンプの後に念入りに行うことが大切である。物の後始末とは、次に使う時のための用意である。



§ 6 野外調理

1. キャンプと調理

キャンプの炊事は非常に重要である。調理には無限の夢があるが、それを成功させるには数多くの練習の積み重ねが必要である。炊事によって調理された食品がキャンプ生活の原動力となり、健康を維持する。最悪の状況でも生命を維持するためのキャンプ技



術を身につけなければならない。しかし最初から最悪の状態でキャンプをするようなことがあってはならない。キャンプは事前準備と教育が大切であり、特に炊事については万全の準備と練習が必要である。

2. 食 糧

(1) おいしくて簡単に料理のできるもの。

下ごしらえがたいへんなものや、調理に時間のかかるものはさけた方がよい。

(2) カロリーが高く栄養のバランスのとれたもの。酸性食品とアルカリ性食品を適正に配分し、栄養的に不足がないように材料を選ぶこと。

(3) くさりにくいもの。ハム、ベーコン、ソーセージ等の利用。

(4) 食事に变化をつけられるもの。同じ材料でも調理方法によって焼物、煮物、むし物、いため物と变化をつけることができる。

(5) 非常食、予備食を用意しておくこと。

風雨や吹雪で日程がのびることを一応考えておき、冬期キャンプでは全体の30パーセント増し、夏期でも20パーセント増し程度余計に準備する。そのうち2～3食はすぐたべられるものを用意すること。乾パン、ビスケット、クラッカー、ドーナツ、即席米、もち、せんべい、いり米、氷砂糖、乾ぶどう等はいざという時便利である。食糧の残り少ない時には、スープにするなどの工夫が必要である。

(6) 包装がかさばらず目方の軽いもの。持ち歩いても腐敗の心配のないもの。軽くて便利であることが第一である。

- (7) 重宝な食品としては、かん詰、生のままかじれる野菜、しいたけ、干びょう、乾うどん、干だらなどの乾物類、塩ざけ、たらこ、佃煮等の加工品、ハム、ソーセージなどの肉製品、奈良漬、福神漬、梅干などの漬物類、その他塩漬けにするか、しょうゆ漬にした生肉類等は重宝な食品である。調味料も小型の携帯用容器に入ったものは便利である。
- (8) 現地で調達できる産物、特に山菜、川魚、特産物など現地での産物は、できるだけ利用するとよい。
- (9) 固型のコンソメスープ、クリームスープ、チューブ入りスープ、みそ汁の素、ジュースの素等も重宝である。



3. 献立

まず料理名を、全体のバランスやプログラムを考えて決める。朝食はできるだけ簡単に、昼食はハイキングなどで移動することを考えて携行できるものを、間食は1日のカロリーの10パーセント位を目安にし、夕食は豪華な献立を考える。料理名が決ったら、料理名ごとに必要な材料表をつくる。

< 献立例 > 3泊4日

	朝	昼	間食	夜
第 一 日		食パン バター、ジャム類 トマトジュース いり卵 (ソーセージ、 卵)	フルーツみつ豆 (みかん、パ イ缶、みつ まめ缶)	カレーライス (豚肉、玉ね ぎ、じゃが いも、カレ ー粉) らっきょう 紅しょうが マカロニサラダ (マカロニ、野 菜、マヨネーズ)
第 二 日	ご飯 みそ汁 (油揚、玉ねぎ) 漬物 (きゅうり、キ ャベソー夜漬)	五目めし (しいたけ、 干しえび、 グリーンピー ス) 福神漬	牛乳 ドーナツまたは クラッカー	ご飯 野菜油いため さつま汁 (肉、みそ、 野菜) 漬物(搾菜)
第 三 日	ご飯 みそ汁 (わかめ) たらこ 納豆	サンドイッチ (鮭かん、きゅ うり、チーズ) マヨネーズ コンソメスープ (固形スープ)	ゆであずき	ご飯 アルミはく焼 (肉または魚、 野菜) すまし汁 (しいたけ、 とろろこん ぶ)
第 四 日	ご飯 みそ汁(ねぎ) のり 酢の物 (しらす干) (わかめ)	焼飯 (ハム、玉ね ぎ、グリーン ピース) スープ(中華風) (豚肉、卵)		

4. 栄養価計算

キャンプ生活に必要な1日分のカロリーの目安は3000カロリーであるが、栄養素のバランスを考えなければならない。そのバランスとして1日に、たんぱく質、脂肪、糖質等の必要量の構成は、次の表が一つの目安となる。

血や肉になるもの 赤の食品	働く力になるもの 黄の食品	体の調子をととのえるもの 緑の食品
魚 類) 肉 類) 180g 大 豆) 牛 乳) 玉 子) 60g	米麦類 540g いも類 120g 砂糖類 25g 油 30g	有色野菜 180g その他野菜) 果 物) 240g

カロリーの計算は、材料のうち食用とならない廃棄分と食品に含まれている水分を差引いた重量に、糖質とたんぱく質は4、脂肪の多い食品は9、を乗じて計算するとよい。また標準食品成分表からも簡単に算出できる。主食の所要量は定まっているので、副食で栄養素とカロリーの過不足の増減をはかればよい。参考までに食品の廃棄率表と食品の水分表を次に表示する。

<食品の廃棄率表>

野菜類	30%
いも類	20%
魚類	45%
塩干魚	30%
卵	15%
果物	20%

<食品の水分表>

米	14%	魚類	70%
麦	13%	牛肉	73%
粉	9%	豚肉	45%
マカロニ	12%	とり肉	55%
乾うどん	17%	干魚	28%
食パン	33%	卵類	75%
ビスケット	10%	納豆	61%
いも類	75%	生野菜	95%
みそ	48%	果物	87%

カロリー計算例 100グラムの米の場合、水分14%として
 $100\text{g} - 14\text{g} = 86\text{g}$ $86 \times 4 = 344$ (カロリー)

5. 調理による栄養素とカロリーの損失

調理中に無視できないものは、加熱と水溶による栄養素の損失である。せっかく綿密に栄養素とカロリーを計算して必要量を調理しても、無駄になることがある。特にビタミンB₁、Cは熱に弱く、水溶性であり、ビタミンA、D、Eは熱に強いが、酸に弱い。カルシウム、マグネシウム、りん、鉄分、沃素分等の無機塩類や、炭水化物は水に溶けやすい等の特性があるので、事前に十分調理方法を工夫しておく必要がある。ここにカロリー、たんぱく、脂肪、糖質の損失パーセント表を参考までに表示する。

<カロリー・たんぱく・脂肪・糖質の損失(%)>

食品類別	調理別	カロリー	たんぱく	脂 肪	糖 類
獸 鳥 肉	ゆ で	20	9	47	
	む し	17	10	39	
	や き	9	5	21	
魚 類	ゆ で	13	12	15	
	む し	13	12	13	
	や き	15	7	17	
野 菜 類	ゆ で	23	21	28	28
	む し	14	17	21	14
	や き	12	21	38	13
海 草 類	ゆ で	32	30	33	33
豆 類	ゆ で	4	5	9	4
卵 類	ゆ で	6	4	7	
	む し	4	1	6	
大豆加工品	ゆ で	16	10	17	86
	む し	21	15	24	
	や き	17	3	22	61
貝 類	ゆ で	77	77	68	
	や き	71	72	67	

6. すぐ役立つ献立表と材料の量

食事の楽しみ，変化，栄養価，調理による栄養素とカロリーの損失等を考慮に入れて，キャンプ生活に役立つための献立と材料の量の参考献立表を次に示す。

この1人前の分量を基準に，工夫した献立を作るとよい。

すぐ役立つ献立表と材料の量（1人前の分量）

朝		昼		夜	
献立	材 料	献立	材 料	献立	材 料
野菜サラダ 牛乳 食パン マーガリン ジャム	トマト (90g) キャベツ (60g) マヨネーズ (20g) 給食マーガリン (2コ) 牛乳 (1本) リンゴジャム (32g) 食パン (2/3斤) きゅうり (75g) 塩	くじら焼肉 野菜いため ごはん 緑茶	くじら焼肉 (140g) 玉ねぎ (60g) ピーマン (20g) キャベツ (60g) 緑茶 (5g) 塩・油・ソース こしょう	カレー ごは 福神漬	豚肉 (60g) 即席カレー (24g) にんじん (35g) 玉ねぎ (60g) じゃがいも (45g) 福神漬 塩・油 こしょう
納豆 みそ 緑茶 牛乳	豆 汁 納豆(1/2包) なす (70g) みそ (30g) インスタント かつおぶし 緑茶 (5g) 牛乳 (1本)	チャーハン スープ	合びき肉 (60g) ピーマン (20g) 玉ねぎ (60g) にんじん (35g) 卵 (1/5コ) コンソメ スープの素 (1/5本) 塩・油・ こしょう	けんちん汁 ごは たくあん 緑茶	じゃがいも (45g) ごぼう (50g) にんじん (35g) 玉ねぎ (60g) 大根 (90g) たくあん (30g) 油あげ (1枚) 緑茶 (5g) しょうゆ・油・塩
ゆで 生野菜 食パン マーガリン ジャム 紅茶	卵 野菜 トマト (90g) きゅうり (75g) 食パン (2/3斤) 給食マーガリン (2コ) リンゴジャム (32g) ティーバッグ (1コ) 砂糖	干だ ら 野菜 スープ ごは ん 緑茶	干だ ら (1/3袋) コンソメ スープの素 (1/5本) 玉ねぎ (40g) にんじん (25g) 緑茶 (5g) しょうゆ・塩 こしょう	シチュ ー ごは ん たくあん 緑茶	牛 肉 (60g) 玉ねぎ (60g) にんじん (35g) じゃがいも (45g) ポタージュ の素(1/5包) たくあん (30g) 塩・油 緑茶 (5g)

朝		昼		夜	
献立	材料	献立	材料	献立	材料
きゅうり 塩もみ みそ ご牛乳 緑茶	きゅうり (75g) 玉ねぎ (60g) みそ (30g) インスタント かつおぶし 佃煮 (1/3袋) 緑茶 (5g) 牛乳 (1本) 塩	ハンバーグ (生キャベツ) ごはんな 緑茶	玉ねぎ (60g) 合びき肉 (60g) キャベツ (90g) パン粉 (1/5袋) 卵 (3/10個) 油・塩・ソース こしょう 小麦粉 緑茶	鶏めし すまし たくあん 緑茶	とり肉 (60g) にんじん (35g) グリーンピース (1/10缶) 長ねぎ (10g) たくあん (30g) 緑茶 (5g) インスタント かつおぶし しょうゆ・塩 砂糖
生ふり みそ ご牛乳 緑茶	卵かけ みそ インスタント かつおぶし ふりかけ (1袋) 緑茶 (5g) 牛乳 (1本) しょうゆ	煮込うどん トマト	乾めん (2/3わ) 牛肉 (50g) にんじん (35g) しいたけ (1/5袋) 玉ねぎ (60g) 長ねぎ (5g) トマト (1コ) しょうゆ・塩・ 砂糖 けずりかつおぶし	豚汁 たくあん ごはんな 緑茶	豚肉 (60g) じゃがいも (45g) にんじん (35g) 玉ねぎ (60g) 大根 (90g) ごぼう (50g) みそ (30g) たくあん (30g) 緑茶・塩

§ 7 宗教儀礼

特にキャンプ中、大自然のもとで行われる日曜礼拝は、神仏への感謝の念をさらに深め、スカウト精神を高めるよい機会となる。自分の信仰に従って礼拝を希望するスカウトには、そのための時間と便宜を与えなければならない。全員が同一の宗教を信仰している時か、育成母体が宗教団体である場合を除いては、皆がいっしょに行う宗教儀礼や、通常行われる日曜礼拝は、特定の宗教、宗派の儀式で行ってはならない。この場合、おきての朗読、B-Pの言葉の朗読、隊長の講話、感謝の黙とう、静かな歌などを組み入れたスカウツオウンの形式で行うこともよい。

1. 各教宗派による日曜礼拝

神父や僧侶や神官等の聖職者の司式の下で行う。礼拝の方法や様式については、各宗教宗派によって異なるので、聖職者の指導のもとにそれぞれの礼拝様式に従って行うとよい。ただあまり長時間にわたったり、祭壇祭具などもあまり飾りすぎない方がよい。自然を充分生かして作られた祭壇は、スカウトに深い感銘を与えるものである。

2. スカウツオウン

スカウツオウンとは、聖職者の司会によらず、スカウト自身の司会によって行われる礼拝形式である。自然にありのままに行い、長時間にわたらず、朗読、聖歌など静かな歌をうたい、感謝の黙とうまたはそれぞれの宗派による祈りを、各自静かに行い、指導者の

講話などを聞く。礼拝は、できるだけ多くのスカウトが分担をもつようにして行うとよい。

スカウトOWNは、それぞれの教宗派の様式によって行われることが望ましい。ちかいとおきての中の神に対するつとめの部分を強調し、スカウト各自の信仰心を高揚するために行われる。

またキャンプ生活においては、朝すがすがしい時に、また寝る前に1日の感謝の心をもって、スカウトOWNをすることもよい。

以上キャンプ生活を通じて、宗教的信仰が奨励されることが望ましい。スカウティングは宗教を根源としている。1924年の世界会議の宣言決議（コペンハーゲン宣言）に

スカウト運動は、宗教心を弱めようとする傾向をもつものでなく、むしろスカウト各自の宗教的信仰を強く奨励するものである。スカウトのおきては、スカウト各自の信仰を誠実に実践することを要求する。

と述べられていることを忘れないでほしい。

§ 8 キャンプファイア

キャンプの夜の楽しさは、静寂な闇につつまれた大自然の中に燃えるキャンプファイアにきわまるといってよい。隊全体で行うキャンプファイアも、班や小人数で囲むたき火もそれぞれ火を通じてのまどい

の場であり、楽しさと親しさを与える有意義な夜のプログラムである。人の心のふれ合いにより、宗教的な心情、グループの協同精神を高め、友情と豊かな情操を育てる極めて大切な場であり、生涯忘れることのでき



井げた形

1. キャンプファイアの種類

(1) 儀式的なキャンプファイア

キャンプの始めや終りの式、進級、上進、入隊式、表彰式等厳粛な静寂の中で精神的に強い印象を与えたり、宗教的な意義、目的を強調したり、感謝の気持ちをささげる等の、儀式的な行事として行うキャンプファイアである。

(2) 懇談的なキャンプファイア

お互いの話し合い、夜話、経験談などを中心に懇談したり、何かテーマを設定しての討議・討論や、特別講師の講話等を行うキャンプファイアである。



(3) 親睦的なキャンプファイア

レクリエーションを主とするもので、歌、踊り、ゲーム、スタッツ、劇、フォークダンス、合奏、漫談、自己紹介などを中心に、なごやかなふんい気で、人間関係の親密さを主とするキャンプファイアである。

2. キャンプファイアの場所

- (1) キャンプサイトから離れたところのがぞましい。
- (2) 静寂なふんい気の出せるようなところ。
- (3) 大きな樹木で囲まれ、参加人員に応じた適当な平坦な空地があるところ。
- (4) 自分たちだけであること。
- (5) 風が吹きさらさず、湿気のないところ。
- (6) うるさい虫のこないところ。
- (7) 火が周囲や上の方に燃えうつる心配のないところ。
- (8) 燃料のまきを準備しやすいところ。



ピラミッド形

- (9) 他からキャンプファイアの場所が見えないところ。
- (10) 近くに電灯などがついていないところ。
- (11) 鳥の声、せせらぎの音、波の音等自然の伴奏が求められればこの上もないところである。

3. キャンプファイアの役割分担

(1) ファイアチーフ (営火長)

キャンプファイア全体の中心となる。野営長や賓客などになってもらうとよい。

点火、開会、閉会の宣言や、感銘深い夜話、全般的なふんい気、気分の統一をする。上席に位置する。

(2) エールマスター (司会者)

ファイアチーフの意を体して、プログラムの進行、展開をして行く。間断をつくらず幕間をうめ、臨機応変な処置ができ、演出力をもっていること。キャンプファイアの成功するか否かの鍵をにぎっている。

(3) ファイアキーパー (火守り)

キャンプファイア中の火係りであるが、2人もしくは4人でやるとよい。まきを用意し、場所作りから、まき組み、趣向をこらした点火法等の準備係も兼ねることもある。静かな話や物語りなどのときは火をしずめ、にぎやかな演出などのときは火を強くしたりすることが大切である。またエールマスターとの連携が必要であることはいうまでもない。

なお、後始末係として、バケツ、スコップの用意、風に注意し、砂や土をかぶせ、再び燃え出さないように、もう一度見回った

り、翌朝火床の近辺を清掃したり、紛失物の点検などを行う。

4. キャンプファイアのプログラム

キャンプファイアのプログラムには一定の型はない。全体を通じて何を目的として行おうとしているかを考え、それに適したようにつくればよい。

(1) 構成

- ① 儀式：静寂であり規律正しく、歌、祈り等を入れ印象的にする。
- ② 歌：明るく健康的で、誰もが気持よくうたえる歌。
- ③ 劇：素朴で、現象を印象的にあるいは即興的に劇化したもので、5分から10分位が適当。（平素の教育において練習を積み重ねたものを発表するとよい）
- ④ 踊り：民謡、インディアン踊り、アクションソング等。
- ⑤ ゲーム：心理的なゲーム、みんなで参加できるゲーム等。
- ⑥ 夜話：簡潔で感銘深い話、ユーモラスな話、感動的な話等。

(2) 組み方

- ① 興奮するもの、にぎやかなものは初めに。
- ② 静かなものは終りに。
- ③ 本部・主催者側のものはなるべく終りに。
- ④ 夜話はいちばん最後がよい。



インディアン星形

(3) 出演についての注意

- ① 野卑なもの、指導者をからかうもの、政治、思想、職業、宗教などを批判したり茶化したりするものはやらない。
- ② 本物の刃物は使わない。
- ③ 他班の出演中に、私語や、自分達の出演の相談はやらない。
- ④ 演技の時間が長すぎないように。
- ⑤ 全員が何らかの形で参加すること。
- ⑥ 終わったらテント内まで興奮を持ちこさないように。

5. キャンプファイアの演技と効果

- (1) 全体的にリズムがあるように心がける。
- (2) 出し物は、キャンプファイアのふんい気に合うものを出す。
- (3) 出演者と観客が、火を中心にしてピッタリ呼吸が合うように。
- (4) ふん装はありあわせの物をそれらしく活用し、細かいメーキャップよりも動作で表現するとよい。
- (5) 唯一の照明である火を、うまく利用する。
- (6) 木、竹、食器などを鳴らすことによって、音の効果を上げる。
- (7) 笑わせるための無理なおどけやせりふは、逆効果になる。
- (8) プログラムの内容に合わせて、火の強弱を調節する。
- (9) どんな場合にも規律を守らなければならない。

以上、キャンプファイアについての基本を示したが、実施にあたっては、指導者として、目的、種類、場所、時間、役割り、プログラムの内容、演出、全体の注意事項などをよく考慮に入れて実施することが大切である。なお消防署、営林署等関係機関への連絡を忘れないようにしなければならない。

§ 9 撤 営

スカウト・キャンプにおいて、撤営作業は、設営やプログラムとともに重要であり、撤営時における手違いは手直しすることができず、ものによってはその後のキャンプにおよぼす影響が大であるので、手違いは許されない。撤営の合図があるまで、設営と改善の作業が続けられていなくてはならない。

1. 撤営の順序

(1) 撤営の前日

- ① 支払いを全部すませる。借りた物品で用済みのものは返す。

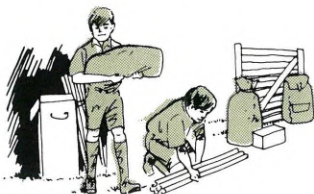


- ② 翌日の交通、輸送の予約をもう一度確める。
- ③ ゴミを焼きすてる。
- ④ 便所、ゴミ穴などは一つだけを残して埋めもどす。
- ⑤ 用済みの用具、教材を荷造りする。
- ⑥ 炊事具、食器も最小限度を残して洗い、荷造りする。
- ⑦ 正規のくいの収納には時間を要するので、撤収の前日などに、臨時のくいに替えて、乾燥や手入れをしておくのがよい。

- ⑧ テント，フライ類にブラシをかけて，ごみを落しておく。
- ⑨ 班長会議で明日の撤営の手順と各班の分担をよく打合せておく。

(2) 当 日

- ① 個人携行品，装備の整理，荷造り
- ② テントの乾燥
- ③ 工作物の撤去，分解したものは整理して束ねておく。(薪の余ったものも)



- ④ 炊具・食器の整理，収納
- ⑤ 国旗掲揚柱，掲示板などの撤去
- ⑥ 病人用テント，指導者用テントの撤去，収納
- ⑦ 各班の居住テントの撤去，収納
- ⑧ 倉庫テントの撤去，収納
- ⑨ 食堂，炊事場のフライシートの撤去，収納
- ⑩ ゴミ穴，便所の埋めもどし
- ⑪ サイトの整地，清掃



2. 撤営についての注意

(1) テント

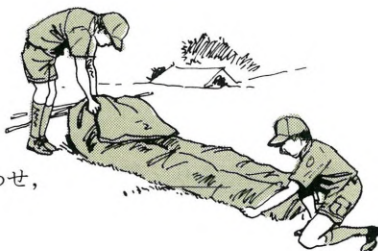
- ① テントは十分乾燥するまで倒さない。雨でぬれた場合は，帰隊後十分に乾燥させる。
- ② 個人携行品は全部外へ出し，一か所にまとめる。グランドシート，フライシートを十分乾かす。

③ テントの張り綱をはずし、同時にくいをぬいで手入れし、員数を確認して収納する。

④ 十分乾燥されたテントを、たてた時と逆の順序で元のよう
にたたむ。

⑤ フライシート、グラン
ドシートをたたむ。

⑥ テントの備品を点検し、
設営時の員数表と照らし合わせ、
確認してから収納する。



(2) 排水溝 (側溝)

溝は、堀った土を埋めもどし、元のようにならず。

(3) 炊事場、炊事用具

① 炊事用具は元のようにきれいに洗い、十分乾燥して収納し、荷造りする。

② 炊事場その他の工作物、溝を堀った所は埋めもどす。工作物の残材はまとめて束にして整理しておく。長さをそろえると便利である。

③ 汚水・汚物捨場は完全に埋めもどす。

④ ゴミは、完全に燃えるものはもやし、ビニールやその他燃えないもの、空かんなどは所定の場所に捨てる。



(4) 便 所

完全に埋めもどして、清潔にした上で、棒3本をたてて目印をつけておく。

3. 最後の点検

- (1) 撤営作業が完了した班は、指導者の点検を受ける。
- (2) 正装になり、荷物をまとめて帰り仕度ができたら、全員でキャンプ地のゴミをひろい清掃する。
- (3) 忘れ物がないかを調べる。



- (4) 土地の持主に検分してもらう。
- (5) 世話になった近隣の人達に挨拶をする。
- (6) 荷物の点検、個数を調べ、運搬分担を再確認して帰路につく。

以上の手順によって撤営を完了し、キャンプ地をもとの姿にして大自然にもどし、感謝のみを残して立ち去ることがスカウト・キャンプの大原則である。帰ったら世話になった人びとへの礼状を忘れないようにしたい。

§10 評 価

スカウト・キャンプ成功の鍵は、周到な計画とそれに基づく実施、その後の評価が科学的に、また具体的に進められることである。評価は単に結果の反省ではない。成功した原因、失敗した原因、さらに成果を上げるため考えることなど、各面から分析してみることが大切である。また効果を測定するうえに重要であるばかりでなく、つぎの段階に進むための資料であり、とくに指導者の反省資料となる。

1. 評価の方法

評価は、スカウト自身で行う自己評価と、グループで行う共同評価、指導者の行う評価があり、方法としては、投書箱を設け、希望や提案、または批判などを書いて投書させる投書法、必要に応じ反省会など会議を開き、お互いに注意しあったり、改善すべき点を見出したりする観察法(評価委員会)、さらに個人記入法、質問法、テスト法などが用いられる。

2. 評価の対象

(1) キャンプ中における評価

キャンプ中に、つぎの各項目について評価がなされ、通常朝夕の点検においてチェックされ、毎朝行われる講評によって参加者全員に伝達されて行く。

① 設 営

○設営前に班会議を行ったか。

- 各自が勝手な行動をせず、班長の指示で手順よく作業をしたか。
- 第1夜を無事迎えることができたか。

以上は平素の教育との比較、班長を中心としたチームとしての作業能率、協調度合を測定するのに役立つ。

② 分担と工作

- 分担作業を責任をもってやったか。
- 基本工作が正しく進められたか。
- 結索は正しく行われているか。
- テント、マーキー、フライなどの取扱い方はよかったか。
- かまど、炊事場の設備はよいか。
- 便所の構築はよいか。

以上は、スカウト技能の基本事項の理解度、応用動作、言語、動作、礼儀等の状況、計画性、創造力、チームワークなどを測定するのに役立つ。

③ 健康と安全

- 衛生に気をつけているか。
- 便所の使い方はよいか。
- 通風、乾燥、日当たりなどへの配慮がなされているか。
- 食品の保存、残物の処理はよいか。
- 工具の取扱い、後始末はよいか。
- 炊具の保管はよいか。
- 火気の取扱い、後始末はよいか。

以上は衣類、身体の清潔、整理、整とん、食事作法、食器類の消毒、保管状況を通じて、スカウトの習慣、衛生観念を測定

するのに役立つ。

④ 士 気

- 班員の士気はどうか。
- サイトのでき上がり、創意工夫がなされているか。
- サイトの整とん、美化に配慮がなされているか。

以上は、スカウトの責任感、協調性、明朗性を測定するのに役立つ。

⑤ 撤 営

- 自然への感謝の気持はどうか。
- テント、工具、炊具、施設の撤営状況はどうか。
- 自然への復元が考えられているか。

以上は、スカウトの感謝の心、後始末に関する観念、自然愛護に関する心がまえなどを測定するのに役立つ。

(2) キャンプ終了後における評価

キャンプ終了後には、つぎのキャンプのために評価がなされ、スカウトだけでなく、主催者たる団、隊および指導者についても評価がなされなければならない。

評価にあたっては、今後教育方法の改善のために、下記の項目について科学的に実施する。

① 団、隊など主催者に対する評価

- 開催の時期、期間はよかったか。
- 管理はよく行われ、施設、用具はよく整えられていたか。
- 主催者の目的が達成されたか。
- キャンプの場所は適当であったか。

- 経費は適当であったか。
- 指導者の選択はよかったか。
- キャンプ地の人びとの協力はよかったか。
- 安全がよく保たれていたか。

② 指導者に対する評価

- キャンプ生活によく適応したかどうか。
- 積極的に指導したかどうか。
- 責任感と義務遂行はどうだったか。
- 協同精神の発揮ができたかどうか。
- 公平で親切であったかどうか。
- 宗教的な心情を湧出するムードを、助成できたかどうか。
- 指導者としての知識と技能は、よく発揮されたかどうか。
- スカウトとの接触、相談相手となる機会は多かったか。
- スカウトの特技を知って、よく伸ばしてやったか。
- 健康・安全に関する注意を十分行ったか。
- スカウトにプログラムの計画を考えさせたか。
- プログラムに興味と欲求が満たされていたか。
- プログラムに創意工夫がなされたか。
- プログラムに不安なところはなかったか。
- 身のまわりの清潔、整頓はよく行われていたか。
- 指導者は期間中つねに健康であったか。
- 期間中睡眠は十分であったか。
- スカウトから病人を出したかどうか。
- スカウトからけが人を出したかどうか。

○スカウトの清潔,整とんに関心を持ち,指導をしたかどうか。

○規則正しいキャンプ生活ができたかどうか。

③ スカウトに対する評価

○キャンプに対する一般的知識と技術を得たか。

○規則正しい生活ができ,定められた規則が守られたか。

○積極的に協力して仕事をしたか。

○よい習慣が身についたかどうか。

○不平不満はなかったか。

○創意工夫して,仕事をなし遂げたものがあったかどうか。

○食べものの好き嫌いがなくなったか。

○キャンプ中に病気はしなかったか。

○キャンプ中にけがはしなかったか。

○キャンプ中睡眠は十分であったか。

○疲労しなかったか。

○食事はよく食べられたかどうか。

○友達・班員と仲よく生活ができたか。

○友達・班員と協力することができたか。

○自分の意見が友達,班員に理解されたか。

○キャンプ生活は楽しかったか。

○ハイキングは楽しかったか。

○自然観察はおもしろかったか。

○キャンプの工作はおもしろかったか。

○野外の炊事をうまくできるようになったか。

○地図の見方や磁石の使い方を覚えたか。

- 結索法ではどんな結び方を覚えたか。
- キャンプファイアでは何を学び、何が印象に残っているか。
- ゲーム、歌などで、新しいものを覚えたかどうか。
- ゲーム、歌、劇などで、何がいちばんおもしろかったか。
- つぎのキャンプにもぜひ参加したいか、したくないか。
- 日数や時期はよかったか。
- たまに家に帰りたくなったかどうか。
- プログラムに対する希望は何か。
- その他気づいたことは何か。

3. 評価基準と成績

評価の採点基準は、一般に優、良、可、不可の4段階または5（非常に良い）4（かなり良い）、3（普通）、2（ややわるい）、1（わるい）の5段階の採点をするのがよい。評価採点者としては、スカウト自身、指導者、主催した団または隊、父兄、特別に設置された評価委員会、など多くの人々の評価を受けるのが、独善に陥らず、真にキャンプ教育の成果を上げるためによいことと思う。また毎年、毎年評価されたものの積み重ねは、キャンプ教育の生きた資料であり、よりよいキャンプへの基礎資料となる。この評価によって、スカウトのもっとも好むものをよく知ることができる。

なお評価成績表とキャンプ報告書をコミッショナーに提出し、意見交換を行い、いろいろ相談をすることが大切である。団、隊においては、必ずキャンプ報告会をすることが望ましい。また記録はすべて保存されて、翌年のキャンプを計画するときに十分活用してほしい。

指導者のためのスカウト・キャンプ<デジタル版>

昭和50年9月1日 初版発行
令和元年 月 日 デジタル版発行(25刷抜)

発行  公益財団法人
ボーイスカウト日本連盟

〒167-0022 東京都杉並区下井草4丁目4番3号
電 話 03-6913-6262(代)
ファクシミリ 03-6913-6263

制 作 株式会社 博進企画印刷

©1975 公益財団法人 ボーイスカウト日本連盟

